

X 災害体験談

劇的な出来事

柱 功 (谷地上)

28日は午後から講中の総会があり、帰ってきた頃から雷雨が始まった。10時頃になり寝ようと思ったが、川（宿内川）の水カサが心配になって表に出て増水の状態をみたりしていた。11時頃には有線電話が不通になった。29日の朝2時頃一番水位が上がった。電灯で照らしてみると田の大部分が水をかぶっている。今まで見たこともない水の量なので千貫石堤が決壊したのではないかと思い改良区に電話したところ、大丈夫だときいて安心した。しかし、ますます水位が上がり心配になって改良区へまた電話したがつながらない。役場、警察と電話したが不通である。まんじりともしないで夜が明けた。

宅道の橋が流されていた。

裏山の普通った山道を刈払いしながら中学校まで抜けて森山住宅の方の田が気になり見に行った。川の中に自動車があり見回したが人の姿は見えない。その時「助けてェ〜」という声が出て、そっちの方を見ると木の枝からハンカチを振っているのが見えた。「頑張れよ」と数回声をかけてから、森山住宅に走って行き110番通報をした。

ものの数分で警察のレスキュー隊が到着したので案内した。隊員がロープを身体に巻いて川に飛びこんだが激流にはばまれて行きつけない。まもなく到着したボートに3人が乗りこんで向ったが思うように進めない。隊員の1人がボートからふり落とされたが木にしがみつき難を逃れた。やっとおぼれている人に行き着きボートに救助した。まったく劇的な出来事だった。

真夜中に、しかも激流の中を何時間もよく絶え抜いたなあ、女だからここまで絶えぬけたのかなあと感心しながら安心した気持ちで帰宅した。

部落に災害対策委員会を設置

高橋 勘太郎 (細野)

牧場の事務所の前は内穴沢川である。午前1時頃川の石が音をたてて流れ始めた。そして、さまざまな木が立ったまま流れてきた。

テレビをつけてみたが豪雨のことは言っていない。177のダイヤルを試してみた。「ただいま県南地方に集中豪雨があります。胆沢町岳山では170ミリ、今後200ミリ前後の雨

が予想される。」と言っている。懐中電灯をつけ外へ出てみると、すでに道路は濁流となつてしまい、ここを逃げ出すことが先決となった。からくも抜け出し牛舎の一番高い所へ避難して朝まで過ごした。夜が明けて、早速、振興会長（高橋敏雄氏）に電話を入れ、部落の状況を確認することにして県道まで歩いた。途中の道路は何ヶ所もえぐりとられ通るのがやっとのことであった。どこもかしこも被害は言語を絶するばかりである。

区長の加藤新七さんに逢ったが区長は消防団員と夜を徹して対策にあたつたとのことである。

早速、部落に災害対策委員会をつくって被害の把握につとめた。

道路が流されて行けない所も多く困難をきわめた。

私の牧場は400頭を越える牛がいるのだが、道路や橋がこの惨状では車は通れない。早速、町が応急工事にかかってくれて、ようやく夜9時すぎに飼料を運ぶことができた。

話を戻すが、28日の午後6時頃事務所東側の川岸からタヌキが5〜6匹山に上っていくのを見ている。タヌキは数時間前に洪水を予知して避難したということであろうか。この話を他人にすると山の中だからさもあろうと、うなづく人と、よく出来た話という人とあることも事実だ。

講中が中心に応急作業を

新井田部落講長 川口 亮 弐

昭和63年8月28日、夜10時からものすごい雷雨となり夜中の12時頃には、小湯沢川、石持沢流域は全般にわたり大水害となり、秋の取入れを前に水田のほとんどは冠水、流失、埋没し耕地も相当の面積に達しました。

新井田部落講中の調査でも、道路や橋、水路、揚場など100箇所以上はあったと思います。

私たちの新井田部落は、講中の契約が結ばれて200年位の歴史がありますが、古老の話でもいままでにこのような水害の記録や言い伝えがないとのことで、まさに未曾有の大災害を経験いたしました。

新井田部落は45戸ですが、大なり小なり被害を受けない家は一戸もありませんでした。

部落講中としては、8月30日臨時総会を開き、当面の緊急対策について協議しました。各班（4班）の被害の実態を報告しあいながら、被害の甚大なところからみんな協力しあってお互いに協力することを決定しました。

小湯沢川筋別当沢の菊地清基さんの裏山が崩壊、牛舎の

損壊、和牛1頭死亡—その掘り出しと二次災害の応急作業は1班11戸の皆さんで早速行くこと、床上浸水で住宅に泥水ゴミなど取り除きや片付方は本人の協力要請を受けて各班で分担して行くことにしました。

道路や宅地の周辺に流れて来た立木や大きなゴミなどは、当面の交通確保のため部落でできるものはみんなで行い、部落の手ではどうにもならないものは町当局にお願いすることにしました。特に二次災害が発生すると思われる危険箇所の応急処置を早急に実施してもらうよう、町へ特にお願いしました。また、今後の対策については、行政区長を通じて町に要請することとし、早速それぞれ各班で手伝いに出役することにしました。

9月12日、部落講中の定例常会。災害対策について今後、行政区、自治会と共同で町に要請することを確認し合いました。

激甚の被害者には講中より、とりあえず被害の程度に応じて1戸2万円から5万円の見舞金を贈ることとし、講長が各戸(6戸)をまわってお見舞いをしました。また、特に大きな被害を受けた石持沢川、小湯沢川については今後の災害に備えて、抜本的な河川改修をしてもらうよう要望することにしました。

12月25日講中定例常会では、講中の頼母子講の取付人は抽選なしで被害の大きい2人に優先して配分しました。また、災害査定で小災害のため採択ならない箇所は同日各班で分担して実地調査を行い、12月27日に町に報告し、補助工事の要請を行いました。特に農地の復旧工事については、昭和64年の作付に間に合うように要望しました。

部落には、講中の協議により災害対策委員会をつくり今後の対応の窓口として活動してもらうことにしました。工事着工後は、設計協議や工事監視について、自主的に監督員を指名(各班1名)し、町及び工事関係者との連絡や要望窓口として活動してもらうよう万全を期して取り組みました。

水がすぐ目の前に

高橋 卷子(細野)

昭和63年8月28日。この日は私達家族にとって決して忘れることのできない水害のあった日です。

こんな山の中に住んでいて誰が水害の心配などしたことがあったでしょう。

家の前を流れる、あまり大きくもない川なのに、この日ばかりは海と化してしまったのである。

雷の音と共に大きな石がぶつかりながら流れる水の音がとても無気味でした。

夜中の11時頃、隣りから電話がかかってきました。近所

に雷でも落ちたのではと思い家族皆起きてきました。電話の内容は、川の水が牛舎に入り牛が出せないので手伝ってくれとのことでした。まさかと思い玄関を開けると、水はすぐ目の前までできていました。「すぐ支度をして出ろ!」という夫の声に、急いで靴をはいて外へ出ました。その時の水は膝まで来ていました。私は祖母を背負って車庫まで行きました。隣の家族も皆そこへ来ていました。夫が家の方へ行ってみたら水は畳の上に乗っているとのことでした。西にあった物置は東の方へ流されていました。やがて夜が明け、家の様子を見に行きました。家の前の畑は木の根や土砂で埋り、ただ茫然とするばかり。やがて近所の人達が手伝いに来てくれました。

私も夫も一週間程、会社を休み落ちつくのに1カ月位はかかったと思います。

あれから子供達は、少しでも雨が降ると「お母さん、また水がふえるのかなあ、カバンと服をそろえなくちゃ」と言って準備するのです。二度とあのような恐ろしい水害にならないことを願わずにはいられません。

家の回りは海の様

小沢 亀治(藤巻)

忘れもしない63年8月28日、29日の2日間に亘る集中豪雨。今でもあの時の恐ろしさが昨日の事の様にまざまざと私の脳裏から離れる事はない。テレビ、新聞等で床上浸水、土砂くずれ、家の中から泥だらけの家具などを運び出す様子を人事の様に見ていた私だったが、まさか私の住むこの金ヶ崎の地域にまでくるとは、想像もつかないおもしろくない事だった。

あの夜、いつもの様に孫達とテレビを見て寝床に入った私だったが、夜中、強く鳴り響く雷の音で目をさまし、中々眼につく事が出来なかった。合間なく光る稲妻で、私が玄関まで行きブレーカーを下げ再び寝床に入る。いつの間にか雷がおさまり深い眼りにおちていた。どのくらい時間が過ぎたのだろう。ばあちゃん(奥さんツギ子さん)が変な臭いがする、ブレーカを下げた為にトイレの喚起扇が回らず臭いがするのではないかと言う為、ブレーカーを上げて玄関まで行ったところ、すぐブレーカーが下がる。変に思って玄関の戸を開けたとたん庭が川になりドロ水が勢いよく流れ家の中にドドッ!と入って来た。びっくりして恐怖のあまり思わず「津波だー。」と叫んだ。ばあちゃんもびっくりして起きて来た。水がだんだん増して来て外に逃げる事も出来ない。まず助けを求めなければと思いい110番に電話を入れた。「2階に避難していろ」との返事の途中で電話は切れ、有線で隣の家と話していたばあちゃんの電話も切れてしまった。水はどんどん増してくる。嫁・

孫達にこの恐しさを見せたくないと思い二階に上がっていろと叫んだ。着がえをしよう部屋にもどろうとしたばあちゃんが畳が浮かんで歩けないと言って、また、玄関にもどって来た。家の回りは、川と言うより海の様で、身動きできず、孫達ばかりは助けたいと必死に避難する事を考えたが、どうする事もできず、ただ手を合わせて拝むばかりだった。そのうちに水は、どんどん増して腰のあたりまでとなったが、寒さも冷たさも感じなかった。とにかく孫達だけはなんとか助けたいという気ばかりで手を合わせていたのだった。一つあった電燈でかべを見ていたばあちゃんが、水が引くと叫んだ。私も本当かと2、3度見たが本当だった。確かに引いて行く、あ〜あ助かった。「助かったぞ」大きな声で叫んだ。玄関の戸を開けたら引いていく水と一緒に色々なものが流れはじめた。あわててひろったが、くつも何足か流されていた。嫁も孫達も良かったよかったと喜んで二階からおりてきたが家の中は、ドロ水で歩く事はできない状態だった。そのうちに消防署の方々や隣組の人達が、かけつけて来て、まだ降り続ける雨の中、素足にパジャマ姿で避難する事ができた。いつも歩いているなじみの道路に、すさまじいドロ水が流れ、あちこちに大きな大木が何本も横たわり、電燈だけを頼りに避難する事ができた。本当に皆様のお陰様で避難する事ができて私も安心した。避難する事ができても、やはり家の中の事が気になり眠る事はできませんでした。午前5時隣組、協力隊のさし入れにより有難く朝食をとった。雨はまだ降り続きやむ事をしなかった。その夜、またかみなりが鳴り避難した隣組の家にお世話になっていたが、今度は、千貫石堤が決壊しそうであるとニュースでその様子を写した。千貫石堤が決壊すれば私の家は、ドロ水でうもれて見えなくなってしまうだろう。増々心配で眠る事もできず、今度は南方生涯センターに避難した。そこで一晩過ごし休んだ。そして次の日すっかり水のひけた家にもどったところ田んぼは、すっかり平らにされ、道路は、こわされてしまっていた。家の中は、ドロだらけで家族がその場にへなへなと座ってしまふ程、ガッカリしてしまつた。その時の気持ちは言葉では、言い表わす事が出来ない程体の力が抜けてしまつたのだ。その後部落の方々、親戚の方々の協力で家の中のドロだけは、何んとかとる事はできた。が、戸だな、すき間あらゆる所にドロは入り込んで手のつけようがない程だった。特にトイレなどはドロがぎっちりと入ってしまい、使用はできなかつた。やっとの思いで水は使えるようになったが、お米もつけものも何もかもドロ水で食べれるものは、何んにも残らなかつた。皆さんの御協力によりお米もいただきその日その日の御飯を大事にして一粒も粗末に使わなかつた。長い毎日、たたみも全部捨て床をはぎ、中からどろを取り出した。農機具は修理に出し、車も修理に出した。電機製品も使い物にならず大変な毎日でした。やっ

と家の中も落ちつき、9月稲刈り時期。なんとカ起き上がろうと首ばかり起き上がった稲穂を手で刈る作業が始まつた。すな土にうもれた稲を刈りながら地面にたたいて砂をおとすのは毎日続いた。コンバインを購入して刈っては歩いたものの、コンバインの前につたて木の根などのごみよけの作業がある。コンバインの中にまちがって入ったりするとコンバインは故障してしまう。本当に神経の使つた毎日でした。水害の後片づけも終わり落ちつきを取りもどす事ができた今も、あの時の恐しさを忘れる事はできない。

濁 流

扇ミヨ子（谷地上）

8月29日の朝のことです。

「お母さん、前の田んぼが川になつてる」と娘の声。「まさか…。」耳を疑うような気持ちで外へ出て愕然とした。なんという事でありましょう。ごうごうとすさまじい音をたてて、家の前が川となつて流れているのです。目の前が暗くなるような激しい衝撃でした。

私が嫁いだ当時は、義父によく聞かされたものでした。「金ヶ崎は西山には沢山の山林があり、千貫石堤もあるし、家も高い所にあるから水増しの心配はない。大事に気をつければ住みよい所だよ。うまい米、野菜も採れるし、国道も駅も近い」（口癖のように話していたのを思い出します。）23年前に他界した義父は、集中豪雨とか、鉄砲水など想像もつかなかつたのでしょうか。

私の家でも今回の水害で約八反歩の田んぼが冠水し、ようやく頭を下げ始めていた稲が濁流の中に消えていました。主人と私は河原と化した田んぼのまわりを一步一步、その日は何回も歩いて見ました。鉄砲水という形で突然襲つた水害は、農地はおろか、農民の心までえぐり取つてしまつた思いがします。泥水の流れる田を呆然と眺め「大変な被害だなあ」とひと言もらした主人。主人の言葉が私の胸にも石のように重くのしかかりました。例年ならさわやかな秋空の下で収穫の喜びをかみしめているはずだつたのに…。

幸い住宅と残りの水田が高い所にありましたので、それだけでも救いでした。しかし、雨はやまずまだまだ緊迫した状態が続きました。千貫石堤が決壊しそうだというのです。「もう、これですべておしまいか…。」そう思いました。避難命令（中学校へ）が出て、主人は身のまわりを整理し、万一に備え床につきませんでした。今か今かと合図を待っていました。でも11時過ぎ、娘から電話があり、「千貫石堤は大丈夫だから休んでも良いそうよ…」と言われ、不安ながらも床につきました。

翌日から金ヶ崎の被害状況が大々的にテレビで全国放送されました。そして各地からたくさんの御見舞い電話をい

ただいたり驚いて御見舞いにかけていただいたりしました。

水害に無関係の人は「何、たいした事なっけじゃ。」と言って簡単に考えている人もいます。しかし、災害後の毎日は、大変な苦勞の連続でした。被害者でなければ解らないと思います。

金ヶ崎では、被害直後から災害復旧に全力を注いでおります。そのお陰で、災害激甚指定を受ける事ができ、国から大幅な助成を受けることができました。そのことは私達、被害農民に安心感を与え大きな励ましにもなりました。

一生涯忘れることのできない日

宮 舘 晴 輝 (横道上
旧千貫石)

「おとうさん大変起きて！」妻の悲鳴に近い声で起されたのは、深夜1時近いころでした。家の中は、ほぼ床上浸水に近く、しかも停電である。外に出てみた、その情景に私は夢ではないかと一瞬目を疑いました。雷は激しく鳴り響き、庭、畑、水田は跡形もなく見渡す限り海と化していました。何がどうしてどうなったのか全くわかりませんでした。ただ思った事は、家が流される早く避難しなければということでした。家から県道まで約30m離れているのですが、道路が全くわからず唯一県道だけが見えました。水深30cm位の激しい濁流でした。歩いては危険と判断し、2台の車に分乗した。先ず、私が車の中から大声で誘導しながら軽乗用車(妻と長女)が発進しました。思ったより濁流は速く何回となく車が横に流され、その度に立往生しました。深い排水口や水田に落ちそうになりましたが、なんとか無事に県道までたどり着きました。次は私の番です(父、母、長男同乗)。ワイパーをフルに回転させても前が見えない豪雨です。ゆっくりと慎重に発進しました。20m位走った途端、急に車が横に流され水田に落ちてしまいました。窓の外を見ると濁水が見えました。その瞬間、この世の終わりらしきものを感じました。目の前が真暗になり、会社の人、親戚の人、あるいは友人の顔が次々と私の脳裏をかすめていきました。父、母も同様の感情のようで泣いている様子です。後でわかったことですが、私の車が水田に落ちた時にはもう助からないと思い、妻の車を助けを求めに走ったそうです。幸いにも車は、道路と水田の土手に車底がつき左右に揺れている。急いで車内から出なければそのうちに横転して車ごと流されてしまう、なんとかしなければ。助かる方法は助手席から脱出することと判断しました。濁流が速く1人の力ではドアは開かず、父と二人がかりで開けました。途端濁流が車内に入り込み腰までつかりました。その影響で傾むいていた車が運良く水平を維持したのです。「今だ早く逃げろ！」私は大声で叫び

ながら誘導しました。県道まであと10m位ではあるが、濁流が速く少しでも足の踏み場を間違えると流されてしまう勢いでした。やっとの事で県道までたどり着くことができ、思わず涙が出てきました。長男はあまりのショックで母の背中であぐらをかいて震えていました。鳴響く雷と豪雨の中、声も出さず私たちは一路親類の家へと裸足で向かいました。後日、家は宿内川の決壊により基礎が破壊され、取り壊すためしばらく親類の家に世話になりました。

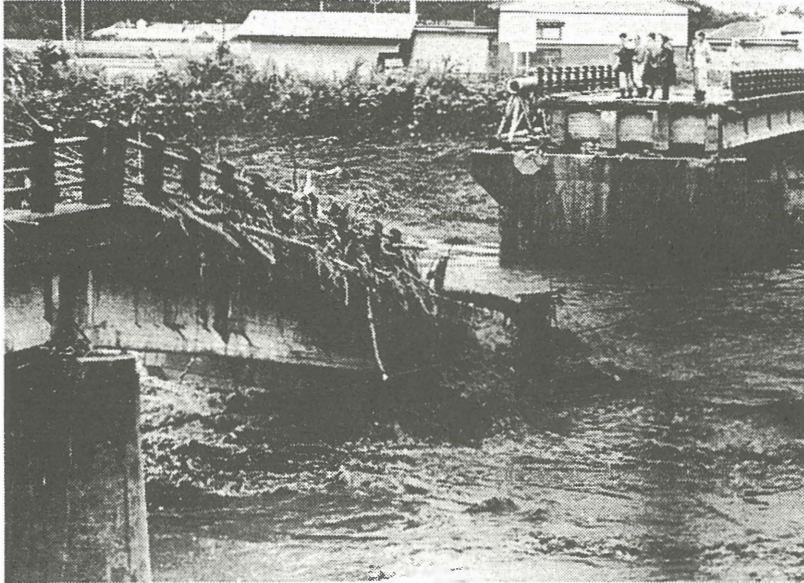
今となっては、車や家は失ったけれど皆無事だったことに感謝しています。8月28日、29日は、私にとって一生涯忘れることのできない日となりました。大自然の恐ろしさ、いざという時の防災対策、命の尊さ、人情の温かさ等得る物は沢山あり、これらを今後の人生に役立てていきたいと思っています。

XI 水災害新聞記事

県南部に大雨被害

床上浸水、冠水広がる

金ヶ崎 胆沢 通行止め、休校も



橋脚が流失、真二つに折れた金ヶ崎町の川原田橋。29日午前6時

県内は二十八日夜から内陸南部を中心に大雨となった。雨は二十九日も降り続き、北上川下流では刻々と水位が上がり、二十九日午前10時現在、一関市孤雛寺で警戒水位七〇を超えた。内陸南部では河川のはらんなどで道路、橋の決壊、田畑の冠水、床上浸水などの被害が相次いでいる。胆沢町では胆沢川の支流堤防が決壊し、小、中学校などが臨時休校した。県は二十八日午後十一時十五分、災害警戒本部（本部長・折笠千代総務部長）県警本部は二十九日午前八時、災害警戒本部（本部長・高橋正徳警備部長）を設置した。盛岡地方気象台は、内陸南部に大雨、洪水警報、岩手県警本部も北上川洪水注意報を出し、慎重な注意を呼び掛けた。花巻、水沢、金ヶ崎、前沢、胆沢、衣川の六市町村も二十八日深夜、警戒本部を設けた。

【関連記事5面に】

停滞する低気圧の影響で、風った暖かい気流が入り込んできた。県内陸南部に強い雷雲が発生、大雨となった。降り始めから二十九日午前十時までの雨は、岳山二八二が、総時

一関の警戒水位超える

△北上川の水位 (29日午前10時現在・岩手県警本部発表)

観測地点	10時現在	警戒水位
盛岡(盛岡)	0.92m	2.0m
盛岡(盛岡)	0.13m	2.9m
盛岡(盛岡)	1.64m	3.0m
盛岡(盛岡)	1.80m	3.3m
盛岡(盛岡)	2.81m	4.3m
盛岡(盛岡)	2.78m	3.0m
盛岡(盛岡)	7.52m	7.5m

岩手県警本部によると、北上川の水位は二十九日午前十時現在、一関市の孤雛寺で警戒水位七〇を超えた。しかし、水位の上昇は鈍っている。北上五大ダムは田瀬、湯田岡ダムを除いてゲート放流を実施している。二十九日午前二時から制限水位維持のため放流を開始した盛岡市の放流量は毎秒八十二に達している。しかし、

時現在の被害状況は、胆沢町胆沢町、金ヶ崎町を中心に床上浸水七戸、床上浸水二十七戸、がけ崩れ五ヶ所、冠水などによる通行止め十二カ所、道路損壊五カ所、盛岡市一カ所への流入水量は同二時から一時間に毎秒百八十二をピークに下がり、午前九時には八十二。御所ダムは二十八日午後十時から放流を始めた。二十九日午前一時には毎秒百五十三を放流したが、同九時には四十二まで低下した。しかし、石畑ダムは午前三時に毎秒三百六十八の放流がピークで、同九時になっても二百八十五で、流入量はあまり減っていない。

金ヶ崎町では二十九日午前警備本部、災害対策本部（本部長・山崎勝男町長）を組織、地元消防団員らを動員し警戒に当たった。午前一時四分には町道穂南町線の黒沢川にかかるコンクリート製の川原田橋（全長約百四）の橋脚の一部が流失、真二つに折れた。胆沢川の支流の黒沢川、永沢川、宿内川の堤防が数カ所決壊、麻巻地区では濁流が流れ込み、道路、田畑などが水没になった。午前三時ごろ、一部の民家が孤立したため県警機動隊が救出に向かったが住民は到着前に無事、脱出した。金ヶ崎町内の全小、中学校七校と全幼稚園六園は二十九日、臨時休校（園）となった。胆沢町では愛宕小が臨時休校とし、若柳中も二時目から

で冠水したため通行止め、県道石巻・金ヶ崎、胆沢線は金ヶ崎町細野・大森間で路面決壊、通行止めとなった。水沢農業改良普及所によると、豊羽山地、胆沢川上流の焼石連峰を中心に局地的な集中豪雨となり、同川下流の増水で胆沢町、金ヶ崎町などの水田に冠水被害が出た。夏油川も増水しており、和賀町内の一部水田が冠水、和賀町の水位も時間もともに上がっており、北上市相去地区の水田も警戒が必要とされている。内陸部低地では泉町と前沢町の境界付近が一部冠水状態となっている。

豪雨 濁流 恐怖の一夜

県南部

女性、車ごと激流に

夏油温泉客122人足止め

深夜、床下からはい上がって来る濁流。乗用車をのみ込む河川の急流。二十八日夜から二十九日にかけて県南部を中心に襲った豪雨は、堤防や橋を破壊し、床上、床下浸水、水田冠水などの被害をもたらした。胆沢郡釜ヶ崎町では激流に流された乗用車の婦人が、立木にすがっているところを県警機動隊員に救助され、床上浸水に遭った住民たちは寝間着姿のまま船出。和賀郡和賀町の夏油温泉では宿泊客百余人が閉じ込められるなど、暗やみの中で降り続く大雨に人々は恐怖の一夜を過ごした。



一面水浸しとなり道路決壊、田畑の冠水が相次いだ金ヶ崎町西根の藤巻地区＝29日午前5時30分

人的被害はゼロ

胆沢地区 黒沢川の堤防決壊で床上

浸水に見舞われた金ヶ崎町西根字藤巻二六、機業小沢亀治さん(妻)が被害に気づいたのは二十九日午前一時ごろ。家族七人は既に就寝していた。「トイレのおいがする」と目を覚ました亀治さんだが、すぐに足元から水がはい上がってきた。停電の中で急き家族を二階へ。家の周りの水田はすっかり湖面のようになり、避難出来ず、水が引いてきた間一時ごろ、ようやく逃げ出した。黒沢川から約三十メートルの位置だが、「こんな洪水なんて生まれて初めてだ」と言い顔。

近くの会社員小沢一さん(右)の家も水浸しになり、部屋の中の家具類なども流された。

た。起きたら庭先まで水が来ていた。バジャマのまま家族八人で逃げた。これからどうしようかと悲嘆にくれている。

同午前一時半ごろ、同町西根字久保屋敷の宿内川・久保屋敷では、同町永沢字三居裏三五ノ三、飲食店従業員河部テツ子さん(妻)の乗用車が濁流にのみ込まれた。乗用車

は約三十メートル下流の木に引っ掛かり、河部さんは木にすがって助けを待った。

午前六時すぎ、救助を求めた河部さんの姿を見た近くの人の通報で県警機動隊が出動、ゴムボートで約三分後に救出された。四時間余りも濁流の中にいた河部さんはグッたり疲れ、唇を凍らせて言葉も出ない。「流れに巻き込まれ、車が三回転して」と恐怖に震えていた。

水沢市姉妹の北上川では、川下りの途中に中州で宿泊していた盛岡市菜園丁目二ノ六、岩手大学三年の丹津森さん(妻)と、盛岡市南仙北三丁目八ノ三四、慶応大学三年大友敏史さん(妻)の二人が取り残された。二十五日に盛岡市を出発して川下りの途中、

二十八日夕から中州に野宿していた。六時すぎに近くの人が見つけ、舟を出しに救助した。

また、金ヶ崎町内では午前四時三十分には千貫石ため池があふれそうになったとかが附近の住民約七十人に避難を呼びかけた。しかし、間もなく水圧が高まったことから解除した。

北上市鬼柳町では小河川本郷川の堤防が一部決壊したため、同町打越、卯ノ木地内の民家八戸が床下浸水したほか、鬼柳町、相去町の水田の一部が冠水した。鬼柳町吉川のJ.R東北線鉄橋下の県道相去一飯豊線は約四十五メートル通行止めになっている。

道路冠水、堤防の一部決壊

北上地区 和賀郡和賀

に連れる県道夏油温泉(江釣子線)は、同温泉から十キロ間の二カ所で土砂崩れがあり、二十九日午前一時五十分から全面通行止めになった。同温泉にある四つの旅館で宿泊客約四百人のうち、二十九日帰る予定だった百二十二人が足止めになっている。北上市木事務所の話では、土砂の撤去はほぼ完了したものの、強い雨が断続的に降り続けているため、二十九日午前中いっぱい通行止めになる見通し。

(第3種郵便物認可)

濁流 実りの田畑のむ



千貫石ため池をあふれた水、濁流は田んぼを埋め、濁になってさらに下流域へ。金ヶ崎町千貫石、午後3時



宿内川の堤防が決壊し、周囲を泥水に囲まれた民家＝金ヶ崎町千貫石、午後2時30分

岳山(胆沢町) 2時間に120ミリ

大気が不安定、雷雲停滞

県南部の大雨は、二十九日一時間で計二〇〇ミリも降った。夕方から激しさを増した。午後五時から一時間の雨量は胆沢郡胆沢町岳山で六二ミリ、一関市祭時で五五ミリ、同六時から一時間でも岳山五八ミリ、祭時三九ミリ。岳山ではこの二

た。南東風は、奥羽山系の県南部が、終息地となり、上空の寒気に暖かい上昇気流が加わり、大気の状態が不安定で、雷雲が停滞、県南部に集中豪雨をもたらした。

盛岡地方気象台は、同日午前四時四十分、大雨に関する情報第一号を出したのを皮切りに同日午後七時二十五分までに五回の情報を発表、雨雲や雨域の動静を刻々と伝えるなど、予想を大きく上回る集中豪雨への対応に追われた。

北上川に洪水警報

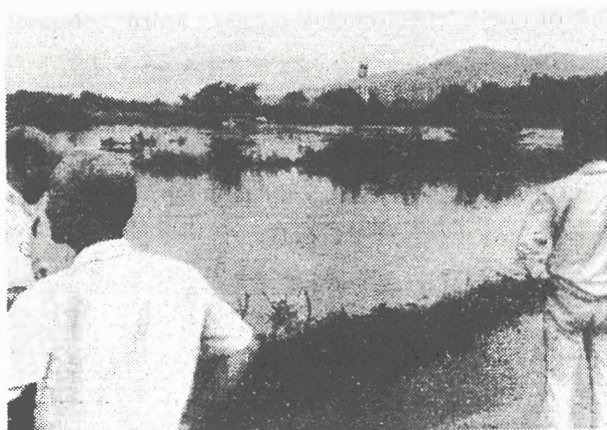
北上川の水位は二十九日午後十時現在、胆沢郡前沢町の大曲橋下流から警戒水位を越し、一関市の狐禅寺で警戒水位を九二センチ上回る七十七二になった。雨域が北上するにつれて北上川上流の観測地点でも増水しており、盛岡地方気象台は午後十時四十五分、北上川洪水注意報を警報に切り替え、流域に警戒を呼び掛けている。

北上川ダム統営管理事務所によると、五大ダムの放流量は四十四田ダムが午後十時現在で毎秒百六十リ、御所ダムが同二百五十リで、両ダムと

もダム水位維持の放流。しかし、石岡ダムは午後七時三十分から洪水放流基準の毎秒五百リを放流。同九時からは六百リに増やしている。

◇北上川の水位 (29日、岩手工務所調べ)

観測地点	22時現在	警戒水位
龜坂橋(盛岡)	153	200
明治橋(紫波)	69	140
柴田橋(紫波)	54	290
朝日山(北上)	179	300
男木橋(水沢)	259	330
桜木橋(前沢)	368	430
大曲橋(一関)	361	300
狐禅寺(一関)	792	700
前沢(川崎)	635	550



刻々と増水する北上川を不安げに見守る住民。水があふれみるみる田畑が冠水。一関市狐禅寺、午後6時

避難 続々 中のみやみ暗

県南の豪雨禍

千貫石地区など600人

金ケ崎ため池が決壊の恐れ



西部地区生涯教育センターに避難、不安な一夜を過ごす金ケ崎町の住民。29日午後9時30分

【大沢・旭地方】旭町 百人が公共施設などに避難、金ケ崎町では、災害救助本部 不安の夜を過ごした。旭町では、旭町公民館などに避難した。旭町では、旭町公民館などに避難した。旭町では、旭町公民館などに避難した。

黒い雲が立ち上り、たまにたまに降る。雨を、田畑も、家々にも、濁流の渦を巻いた。北に、和賀地方にも被害が広がっている。一帯は、北に、和賀地方にも被害が広がっている。一帯は、北に、和賀地方にも被害が広がっている。

旭町では、旭町公民館などに避難した。旭町では、旭町公民館などに避難した。旭町では、旭町公民館などに避難した。

旭町では、旭町公民館などに避難した。旭町では、旭町公民館などに避難した。旭町では、旭町公民館などに避難した。

旭町では、旭町公民館などに避難した。旭町では、旭町公民館などに避難した。旭町では、旭町公民館などに避難した。

旭町では、旭町公民館などに避難した。旭町では、旭町公民館などに避難した。旭町では、旭町公民館などに避難した。

旭町では、旭町公民館などに避難した。旭町では、旭町公民館などに避難した。旭町では、旭町公民館などに避難した。

旭町では、旭町公民館などに避難した。旭町では、旭町公民館などに避難した。旭町では、旭町公民館などに避難した。

細いフジづるが命の恩人

金ケ崎の阿部さん 4時間後、濁流から生還



母親のアイ子さんの付き添いで元気を取り戻す阿部テツ子さん

濁流から救われて、たまたま川筋のそばにいた。濁流から救われて、たまたま川筋のそばにいた。濁流から救われて、たまたま川筋のそばにいた。

母のアイ子さんの付き添いで元気を取り戻す阿部テツ子さん。母のアイ子さんの付き添いで元気を取り戻す阿部テツ子さん。母のアイ子さんの付き添いで元気を取り戻す阿部テツ子さん。

母のアイ子さんの付き添いで元気を取り戻す阿部テツ子さん。母のアイ子さんの付き添いで元気を取り戻す阿部テツ子さん。母のアイ子さんの付き添いで元気を取り戻す阿部テツ子さん。

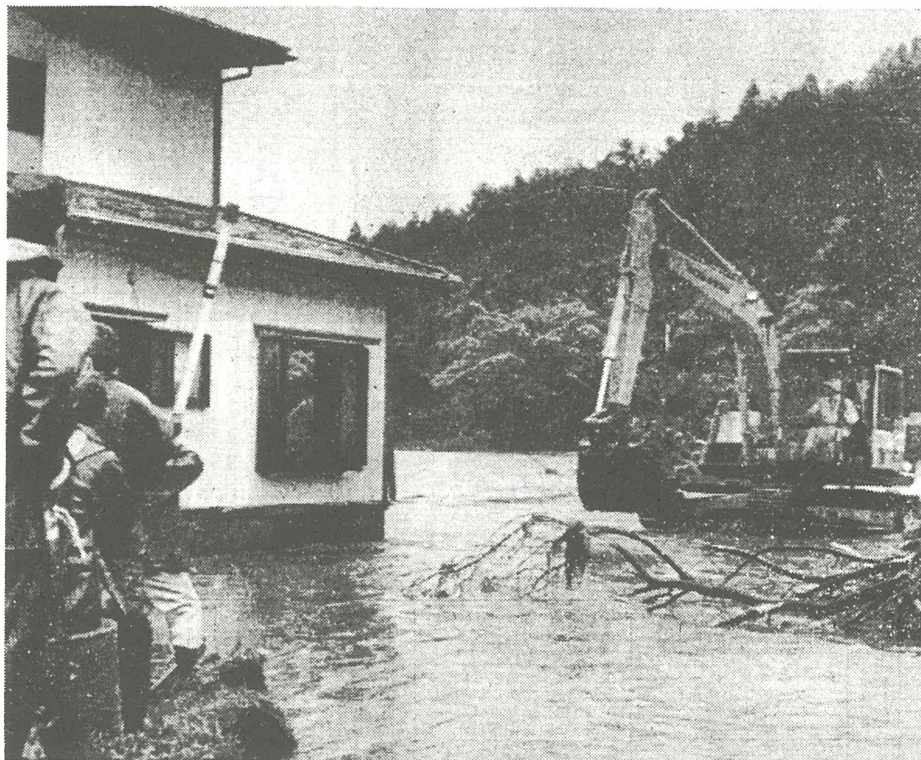
母のアイ子さんの付き添いで元気を取り戻す阿部テツ子さん。母のアイ子さんの付き添いで元気を取り戻す阿部テツ子さん。母のアイ子さんの付き添いで元気を取り戻す阿部テツ子さん。

避難所で不安な夜

県南の豪雨禍

濁流の中、早々家路に

金ヶ崎ため池「死守」に安ど



床上浸水の民家の周辺では早くも復旧作業—金ヶ崎町千貫石

何日ぶりの小さな青空が時のぞく。二十八日夜から県南部を襲った集中豪雨は三十日、やっと峠を越した。最も被害が大きかった胆沢郡金ヶ崎町では千貫石ため池決壊の恐れで避難していた町民八百人が不安と焦りの一夜を明かして家々に戻った。しかし、濁流はなお激しく、一関市など北上川下流の低地は田畑を沈め、住家にも流れ込んでいる。雨域は沿岸部にも及び、ケリラ豪雨の深く広いツメ跡にさらされまわっている。一方、JR東北線で貨物列車脱線転覆で、三十日朝の通勤通学、長距離旅行者らの足も混乱した。

【本記は一面に】

擁壁の崩壊が心配されていた胆沢郡金ヶ崎町の千貫石ため池では昨夜を監視していた千貫石土地改良区、県、町職員のほか、三十日午前七時、ため池の水位が減少し、雨が小降りとなって葉の切れ間から焼石連峰の青い山並みが顔をのぞかせると「山が見えたぞ」と安どの声を上げた。

千貫石ため池は、擁壁が崩れると鉄砲水となって下流住民に被害をもたらす恐れがあり、二十九日未明から戒厳態勢が続いていた。同日夜半になつたため池の水位は減少を始めた。三十日午前四時半、付近一帯の住民に知らせを出していた避難勧告を解除。公共施設などに避難していた約七百人がホッとした表情で深夜に自宅へと戻った。

千貫石ため池の管理棟に避難していた近所の宮崎ツヨミさん(60)は「ため池からあふれ落ちる水がゴー、ゴーとすごい音をたてて不安だった。でも、大勢で体を寄せ合つて床に横になることができ、救われた」と安心した。夜が明けても雨は断続的に降り続いたが、監視に当たった某土地改良団体連合会の野原義主(67)は「池から溢れる水がサラサラという音に変わった。もう大丈夫」と危機感脱出を確信していた。

つれ、避難先から帰った人たちは早急床に、床上浸水の後片付けに取り組んでいる。千貫石の下流に当たる金ヶ崎町千貫石千貫石三ノ一、農業産物販売さん(60)の自宅は、管内川の堤防が決壊し、濁流に洗われる状態。バックホーが動員され、消防団員が見守る中、宮崎さんの民家を守るため流れを変える作業に着手した。

二十九日夜、あふれる水の勢いに押され、避難途中、水田に転落したという宮崎さんはいち早い復旧を望みながら「川のそばに家を建てたのが悪かったのか」と厲言としていた。

一方、町内の道路は各地でズタズタに寸断され、復旧を急いでいる。同町西根字赤坂の町道は黒沢川の激流に土砂がさらわれ、至る所でアスファルトの舗装面が大きく破打ち、き裂が入っていた。町道沿いに住居を擁する同町西根字赤坂一ノ一、公務員斎藤正人さん(58)は「二十九日

未明からゴロゴロと大きな石の流れる音、ゴーと波が道路にぶつかる音がした」と述べた。斎藤さん方は床上浸水の被害に遭い、「ティンと台風の上だ」と巻。

黒沢川は、途中で堤を破り流れを変えるほどの恐れがあり、突然、水がなくなった。堤の河床にはカシカ、イワナなどが石の間にはさまれ、身を動かしきれずに死んでおり、激流のすさまじさを物語っていた。

【胆沢】三十日未明から雨脚が弱まり、被害の広がりも治まりつつある。北上川に架かる小倉木橋が一部沈下して通行止めとなったが、水位は徐々下がっており、そのほかでは大きな被害はなさそうだった。

胆沢郡金ヶ崎町では、三十日午前九時までに床上浸水が計二十四戸、床上浸水八十四戸。しかし水は徐々に引いており、三十日朝から復旧作業も始まっている。

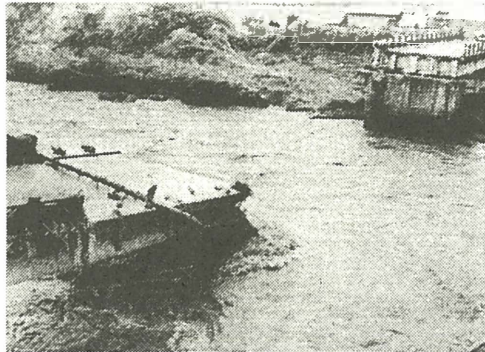
二十九日に床上浸水三十九戸、床上浸水二十六戸の被害を出した胆沢町は、三十日午前八時現在の調べでは、その被害は増えていない。しかし市野々から秋田県境にかけての国道397号は、土砂崩れや路肩決壊などにより延長二十キロが依然全面通行止めとなっている。

内陸部で集中豪雨

北上川支流が決壊

床上浸水66戸、床下238戸

県内は、二十八日深夜から二十九日にかけて内陸部を中心に断続的な集中豪雨に見舞われ、降り始めから同日午後三時現在、船形郡山で三四リ、一関市界隈で二〇八を記録。北上川が同市狐塚まで同日午後三時、警戒水位（七センチを平均を超え、金ヶ崎町で支流の笹内川、黒沢川、水沢川などの堤防が決壊、水田が冠水した。県警災害準備本部によると、同町を中心に床上浸水六十八戸、床下浸水二百三十八戸の被害が出たほか、道路損壊が相次いだ。また、同日午後三時現在、同町千原地区では、ため池の堤防が決壊する恐れが出たため地区住民約五百人が一時、高台などに避難した。盛岡地方気象台は内陸南部に大雨、洪水警報、建設省岩手県事務所も北上川洪水注意報を発表、警戒を呼びかけている。



黒沢川のはんらんで橋脚が二つに折れた原田橋



高台に避難した金ヶ崎町の住民

金ヶ崎で300人が避難

この大雨は、南から送った回気帯によると、雨はきつよ暖かい空気が内陸部に流れ込み、二十日朝まで降る見込み。また、雷が発生したため、二十九日午前六時ごろ、水沢市休町の北上川にかかると、盛岡市中川で盛岡からコムホー上で川下り中の大生主入が立ち往生していたが、県警機動隊が助もなく救助。金ヶ崎町で同町約二キロ、乗用車を

運転中の女性が道路の冠水のたふもけなく、けが人や行方不明者はいない。一方、浸水のため金ヶ崎町三ヶ尻の国道四号線と船沢町取崩の国道三九七号線が通行止めとなったほか、JR東北線では上下各一本が運休、七本が最悪一時五分の遅れとなった。

東北本線で貨物脱線 金ヶ崎

この事故のため、JR同線も運転を見合わせた。同日深夜、金ヶ崎で、東北本線の貨物列車（二十両編成）の先頭二両（機関車）が脱線。はすみで後続の機関車もシグナル状に脱線した。この事故で、列車を運転していた石川進蔵国土交通省が首を強く打つ軽いかたをした。

一十九日午後七時十分ごろ、金ヶ崎町三ヶ尻の東北本線下り線で、東京発札幌行き貨物列車（二十両編成）の先頭二両（機関車）が脱線。はすみで後続の機関車もシグナル状に脱線した。この事故で、列車を運転していた石川進蔵国土交通省が首を強く打つ軽いかたをした。

北上川再び警戒水位突破

建設省岩手県事務所は九観測地点二カ所を凌ぎ七カ所で警戒水位を超過している。盛岡の明治橋は午前五時に警戒水位を突破、同七時には一・七センチとなったが、同十時には一・四五センチに低下した。下流の狐籠寺では同五時に七・三五センチまで水位が下がっていたが、上流に降った集中豪雨の影響で再び上昇。同日夕方には八・五センチ前後まで達する見通しで、警戒が必須だ。

岩手日報 8月30日

◇北上川の水位(31日、建設省岩手県事務所観測)

観測地点	10時現在	警戒水位
鹿沼(盛岡)	24553	00600
鹿沼橋(盛岡)	24495	00600
鹿沼橋(花巻)	24953	00600
鹿沼橋(花巻)	24953	00600
鹿沼橋(花巻)	24953	00600
鹿沼橋(花巻)	24953	00600
鹿沼橋(花巻)	24953	00600
鹿沼橋(花巻)	24953	00600
鹿沼橋(花巻)	24953	00600
鹿沼橋(花巻)	24953	00600

建設省岩手県事務所は九観測地点二カ所を凌ぎ七カ所で警戒水位を超過している。盛岡の明治橋は午前五時に警戒水位を突破、同七時には一・七センチとなったが、同十時には一・四五センチに低下した。下流の狐籠寺では同五時に七・三五センチまで水位が下がっていたが、上流に降った集中豪雨の影響で再び上昇。同日夕方には八・五センチ前後まで達する見通しで、警戒が必須だ。

(第3種郵便物認可)

岩手

動かぬ列車にイライラ



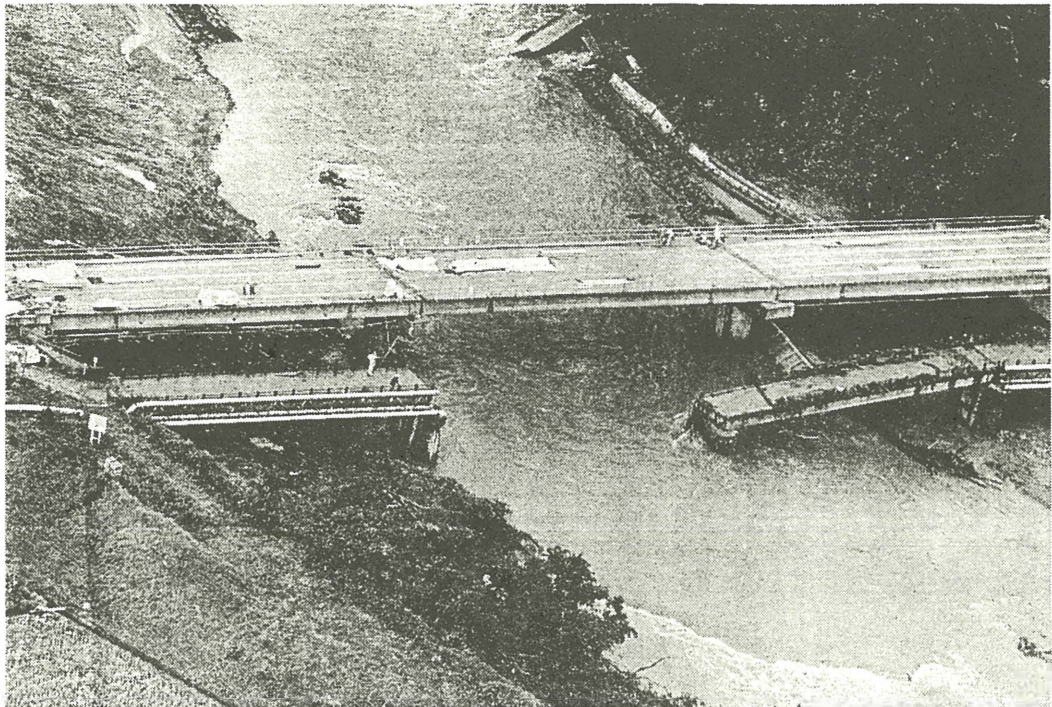
下り貨物列車の脱線転覆事故現場。手前が脱線し傾いた先頭の機関車。後方に2両目の機関車が横転。30日午前6時10分



決壊の危険にさらされた金ケ崎町・千貫石ため池の水位を警戒する関係者。29日深夜



思わぬ止めをくい、疲れ切った表情で代替列車を待つ急行「八甲田」の乗客。JR盛岡駅待合室。30日午前0時30分



流失した橋脚

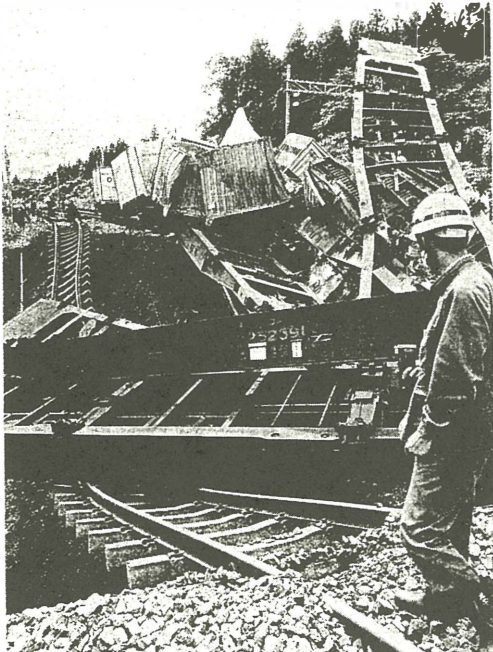
黒沢川にかかる橋脚が流失し真二つに折れた金ケ崎町・川原田橋。1日Cチャーター機から本社カメラマン、30日午前10時50分

貨物列車を脱線転覆させ、各地で道を寸断、あつた濁水は民家を襲い田畑を泥沼の底に沈めた。激流にも折れた二つに折れた濁水とコンクリート橋もある。二十

八日頃から縣南部を中心降り続いた豪雨は、あちこちに大きなツメ跡を残し、三十日、やっと峠を越した。床
上・床下浸水が続出、家を離れ避難した家族、徹夜で警戒を余儀なくされた関係者も多い。水害浸水地・一関市

出来秋前にツメ跡深く 県南豪雨禍

脱線、寸断、泥沼化… 大打撃の田園地帯



上り線バラリ

JR東北線大倉沢橋りょう上に折り重なって散乱するコンテナと土砂が崩れ、重みでたれ下がった上り線レール＝北上市相去、30日午後1時30分



町道スタスタ

黒沢川の激流で土砂をさらわれスタスタに引き裂かれた町道＝金ケ崎町西根地区、30日午前8時20分

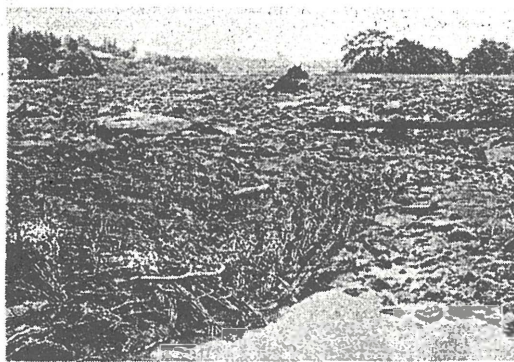
豪雨の適用政令を制定 激甚災害

本県査定見込額は50億円

25日の閣議

政府は二十五日の閣議で、昭和三十三年八月九日から三十一日までの間の豪雨及び暴風雨についての激甚災害の指定並びにこれに対し適用すべき措置の指定に関する政令を制定した。

この政令の制定は、激甚災害として指定することにより、その激甚災害に対し適用すべき措置として、被災地等の復旧事業等にかかる補助の特別措置等を指定する必要があるから、二十四日の事務次官



災害復旧が間もなく開始される・坂水橋付近

等会議に続いて、この日制定したもので、激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律では、国が被災地に著しい影響を及ぼし、かつ、この災害による地方財政負担を緩和し、または被害者に対する特別の援助を行うことが特に必要と認められた災害が発生した場合、その災害を激甚災害として指定、適用すべき措置を定めているもので、今回の査定見込み額は、被災地が二十八億円、農業用施設が

補助率高上げで負担 農林に続き土木指定も努力

金ヶ崎町

金ヶ崎町では、八月二十八日、二十九日の集中豪雨で農林業、公共土木等で五十七億九千万円あまりの被害を受け、関係官庁に対して激甚災害の指定を働きかけて来ただけに今後復旧に拍車がかかると期待している。

通常の場合、激甚災害指定は、翌年に指定されるケースが多く、被災後二月あきり指定されたことは、復旧工事の早期着手が可能となる。また、財政的には九月議会で災害復旧費として十九億円の予算を計上しており、補助率が高上げされることにより町負担が少なくなると見込まれる。町では国の査定を受け補助率が決定した復旧工事に着手したい考えであるが、公共土木施設関係の指定が決まっていないことから、今後関係機関に働きかけを行っていく。

山陽勝野町長の話「正直いってホッとしている。くわしくは二十八日の告示を見なければならぬが、農林、公共土木のうちの第一関門は通過したという感じだ。これで早期復旧が可能になると思う。今後は公共土木の指定へ向け努力したい」

五十六億円、林道十七億円、県は五十億円、計三百億円で、このうち着手適用する指定は、農地、農業

用施設、林道の災害復旧事業等にかかる補助率の「高上げ」で、過去五カ年の平均補助率は農地は通常約八三%、高上げ約九%、農業施設は通常約九四%、高上げ約三%、林道は通常約七五%、高上げ約一〇%となっている。

この政令は二十八日に公布され、金ヶ崎町や胆沢町など大きな被災地が対象となるものと見られている。

なお、政令制定等は在京の小沢代議士から本社に連絡があったもの。

8月の豪雨を「激甚災害」に

政府が次官会議で指定

本県の被害額は79億円余に

政府は二十四日の事務次官会議で、ことし八月に起きた北海道や東北、関東を中心とした豪雨、暴風雨災害を「激甚災害」に指定し、農業施設などの復旧事業に特別補助することを決めた。二十日の閣議で正式決定する。

激甚災害の対象は八月九日から三十一日までの間の台風十五号などによる豪雨被害。被害は全国の三十三都道府県にまたがり、被害査定見込額は農地が約二十八億円、農業用施設が約百五十六億円、林道が約十七億円の計約二百一億円。都道府県別で特に被害が大きかったのは北海道七十

三億円、岩手五十億円、次いで群馬（九億円）千葉（八億円）宮城（七億円）の順となっている。

復旧事業に充てられた被害額は一件当たり三十万円以上の場合に国庫補助のかさ上げが、三万円未満の場合は地方交付税の上積みが行われることになっている。

割合は、平均で農地九二・九%、農業用施設九六・二%に及んでいる。

官報 (激甚災害として指定)

1 昭和63年10月28日 金曜日 官報 第18505号



大蔵省印刷局発行

昭和六十二年四月五日(日刊)日曜(日休刊)
毎週水曜(日休刊)日曜(日休刊)日曜(日休刊)
行録(官報)毎週水曜(日休刊)

目次

〔政 令〕

- 昭和六十三年八月九日から三十一日までの間の豪雨及び暴風雨についての激甚災害の指定並びにこれに對し適用すべき措置の指定に関する政令(三二二)
- 国民年金特別会計への一般会計からする国庫負担金の繰入れの特例に係る控除額及び加算額の改定に関する政令の一部を改正する政令(三二二)
- 関税法施行令の一部を改正する政令(三二二)
- 食糧管理法施行令の一部を改正する政令(三一五)
- 〔府 令〕
- 沖縄総合事務局組織規程の一部を改正する総理府令(総理四六)
- 〔省 令〕
- 法務局及び地方法務局の支局及び出張所設置規則及び登記事務委任規則の一部を改正する省令(法務四〇)
- 人口動態調査令施行細則の一部を改正する省令(厚生六〇)
- 医師法施行規則及び歯科医師法施行規則の一部を改正する省令(同六一)

政 令

昭和六十三年八月九日から三十一日までの間の豪雨及び暴風雨についての激甚災害の指定並びにこれに對し適用すべき措置の指定に関する政令をここに公布する。

御 名 御 璽

国事行為臨時代行名

昭和六十三年十月二十八日

内閣総理大臣 竹下 登

政令第三百二十二号

昭和六十三年八月九日から三十一日までの間の豪雨及び暴風雨についての激甚災害の指定並びにこれに對し適用すべき措置の指定に関する政令

内閣は、激甚災害に對処するための特別の財政援助等に関する法律(昭和三十七年法律第五百十号)第二条第一項及び第二項の規定に基づき、この政令を制定する。
次の表の上欄に掲げる災害を激甚災害に對処するための特別の財政援助等に関する法律(以下「法」という。)第二条第一項の激甚災害として指定し、当該激甚災害に對し適用すべき措置を同表の下欄に掲げるとおり指定する。

激 甚 災 害	適用すべき措置
昭和六十三年八月九日から三十一日までの間の豪雨及び暴風雨による災害	法第五条及び第二十四条第二項から第四項までに規定
備考度上欄の暴風雨とは、昭和六十三年台風第十一号(同年八月十三日に北緯二十度、東経百二十七度)において北緯二十度、東経百二十七度において消滅したものをいう。)	
備考度下欄の暴風雨とは、昭和六十三年八月十四日に北緯二十四度、東経百二十二度、東経百二十二度において発生した熱帯低気圧(同年八月十六日に北緯三十三度、東経百三十六度)において消滅したものをいう。)	
備考度下欄の暴風雨とは、昭和六十三年八月十六日に北緯三十三度、東経百三十六度において発生した熱帯低気圧(同年八月十八日に北緯三十三度、東経百三十六度)において消滅したものをいう。)	
備考度下欄の暴風雨とは、昭和六十三年八月十九日に北緯三十三度、東経百三十六度において発生した熱帯低気圧(同年八月二十一日に北緯三十三度、東経百三十六度)において消滅したものをいう。)	
備考度下欄の暴風雨とは、昭和六十三年八月二十一日に北緯三十三度、東経百三十六度において発生した熱帯低気圧(同年八月二十三日に北緯三十三度、東経百三十六度)において消滅したものをいう。)	
備考度下欄の暴風雨とは、昭和六十三年八月二十三日に北緯三十三度、東経百三十六度において発生した熱帯低気圧(同年八月二十五日に北緯三十三度、東経百三十六度)において消滅したものをいう。)	
備考度下欄の暴風雨とは、昭和六十三年八月二十五日に北緯三十三度、東経百三十六度において発生した熱帯低気圧(同年八月二十七日に北緯三十三度、東経百三十六度)において消滅したものをいう。)	
備考度下欄の暴風雨とは、昭和六十三年八月二十七日に北緯三十三度、東経百三十六度において発生した熱帯低気圧(同年八月二十九日に北緯三十三度、東経百三十六度)において消滅したものをいう。)	
備考度下欄の暴風雨とは、昭和六十三年八月二十九日に北緯三十三度、東経百三十六度において発生した熱帯低気圧(同年八月三十一日に北緯三十三度、東経百三十六度)において消滅したものをいう。)	

附 則
この政令は、公布の日から施行する。

内閣総理大臣 竹下 登
大蔵大臣 宮澤 喜一
農林水産大臣 佐藤 隆
自治大臣 梶山 静六



災害の時は、家の庭にひざまで水がたまつてとてもたいへんでした。水が引いてから、水田のポンプ小屋の修理とかいろいろこまかい復旧にけっこう費用がかかりました。三、四年くらい前にこれほどではないけれどやはり災害がありました。その時から、私は、河川の流水を変えてますすぐにしたらと思っていました。ですから、今度の災害関連事業で河川の線形



高橋和子さん
(二渡 54歳)

早く復旧工事を

いざ復旧にあたっては、いろいろな意見が出されました。今ではみんな賛成ですがみんなの気持が



畠山 寿幸さん 楳文右エ門さん
(坂水 49歳) (坂水 73歳)

今後の農業を考えると

まとまるのかなり期間がかかりました。米価は下がるし、転作も多くなるしハッキリした見通しが無い状況の中では賛成しがたいところがあつたという気持はよくわかります。今現在のことが一番心配です。でも、将来のことを考えるとやはり整備した方がいいと思います。河川改修をするのだいぶ土があるようなんです。せつかくこの地域の土を地域の低いところに有効利用して整備し、大きなほ場づくりをします。これからの農業を考えた時、その方が何をすることも有効だと思います。

が変わるのは良いことだと思つています。用地買収も終わつてるので早く工事に取つかつて欲しいです。工事中には、田まで農作業に行けないということがないよううにしてもらいたいというのが一番希望ですね。

町役場では、昭和六十三年八月末の集中豪雨の『災害史』を編集しています。災害時の貴重な写真、ビデオがありましたらぜひお借しください。また、記録や感想文もとりまよとしておりますのでこちらの方もよろしくご協力をお願いします。

連絡先 役場企画財政課広報係
 公四二二二二二内線二二二



坂水地区 (団体営土地改良総合事業受益地域)

災害関連事業の推進

し、現在、工事に着手しています。
町が事業主体となって進める石持沢川、永沢川、黒沢川の災害関連事業も考へ方と取り組み経過は、災害復旧助成事業と同じといえます。

区画整理の取り組み

により、河川の中と線形を大中に見直し将来に向けて整備することになっていきます。事業は六月から実施しており期間は二年です。
黒沢川のはんらんで農地および農業用施設等に大きな被害を受けた坂水地区は、河川改良復旧事業と併行して団体営土地改良総合事業に取り組んでいます。
当初、河川改修計画が出された時、旧河川が大きく蛇行していたというところもあり農地・農業用施設が分断するようなかたちでした。これら

を解消するために区画整理を内容とした事業の話がもち上がりました。自己負担があるということもあり話はすんなりとは決まりませんでした。前年の十一月から九回も話し合いがもたれ、坂水、新井田、高谷野、広本の四部落の二十四人の構成員がやっとまとまりました。
施行面積は十二畝で、総事業費は八千八百万円となっています。
この事業を導入する利点としては、①三十坪以上の大きなほ場区画にすることができる②ほ場は整然となり農地の高低差による不便が解消できる③旧河川も農地にて

今後の見とおし

本年度末には、河道が整備され護岸工事もかなり進み、六十%程度の進捗率になると思われます。
河川復旧にあたって土石流を防止する砂防ダムの効果性が評価され、キッツ川上流と黒沢川の赤坂付近に砂防ダムを建設する予定になっています。
また、宿内川や黒沢川について

将来のことを考えて



川口正義さん (川目 60歳)

「アイオン・カサリン」の頃はまだこのあたりの農地までは水が上がらなかったようです。去年の災害の時は、この辺一帯石ころでみられない状態となりました。町や県に頑張ってもらって復旧してもらってとてもよかったです。おかげさまでした。
川のかたちを変えて河川の整備

は、この事業の区域内の災害復旧の高額補助金もあり自己負担額がかなり軽減されるということですから。工事は、秋までに農地部分を完了させ有効利用する予定です。

は、災害復旧工事以外の箇所についても小規模河川改修事業、中小河川改修事業で、災害復旧工事の完成時をめぐりにして整備がされることになっていきます。
河川関係工事が進むにつれて工事用の車輛通行が増えます。交通事故に充分注意を払われ事故のないように協力をお願いします。

もするようですが、将来のことを考えればいいことだと思います。土地への愛着があるので農地にかかるとはショックがあります。でも、これからは山の方もどんどん開発されるようですし、それで下流は災害をうけないように整備をしていかなければならないと思います。下流の防備のために上流にダムでも造ってもらえば完全な災害防止になると思っただけですね。
地権者の中にはいろいろな考えの人がいますが、少なくともまた水害にならないような復旧整備をしてもらうということ、みんな協力したいと思っています。

河川災害復旧助成・河川関係事業

事業名	単位	助成・岩手県		助成・岩手県		助成・岩手県		砂防関連・岩手県		河川関連・金ヶ崎町		河川関連・金ヶ崎町	
		宿内川	黒沢川	永沢川	キッツ川	石持沢川	永沢川	黒沢川	永沢川	黒沢川	永沢川	黒沢川	
全体事業費	千円	1,398,317	3,248,706	1,088,757	809,610	1,141,178	424,133	353,764					
災害費 (決定額)	千円	759,787 (6)(718,508)	1,576,348 (2)(1,305,545)	672,451 (4)(656,932)	493,152 (4)(468,278)	670,516 (4)(609,770)	325,589 (2)(279,473)	245,659 (2)(211,845)					
助成費	千円	630,000	1,636,000	398,000	—	—	—	—					
関連費	千円	—	—	—	310,697	439,231	96,054	108,105					
他費	千円	8,530	36,358	18,306	5,761	31,431	2,490	—					
延長	m	3,315	5,225	2,115	1,967	3,390	1,180	783					
護岸工	m ²	19,667	69,923	14,446	12,607	12,743	6,400	4,411					
床固工	基	36 落差12 帯工24	40 落差9 帯工31	24 落差11 帯工13	27 落差17 帯工10	32 落差4 帯工28	19 落差10 帯工9	10 落差7 帯工3					
橋梁工	橋	4	4	2	1	8	2	2					
根固工	個	3,202	9,929	2,413	484	4,378	1,710	3,521					
排水工	箇所	18	32	20	5	16	9	—					
取水工	箇所	7	1	4	1	3	1	1					
用地	m ²	40,700	77,360	46,800	25,245	30,903	5,300	3,700					

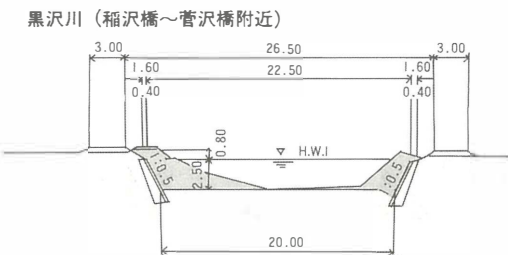
河川災害復旧助成事業とは？

激甚な被災箇所または、これを含めた一連の施設について、一定計画のもとに河の面積を拡げたり、流路の是正を行い、再度災害を防止するために災害費に助成費を加えて施行する事業。事業主体一県

河川災害復旧関連事業とは？

被災箇所または、これを含めた一連の施設の再度災害を防止するために改良復旧するもので災害費に関連費を加えて施行する事業。事業主体一県・町

標準横断図例 (災害復旧助成事業)



河川沿いに歩くとゴロゴロと大きな石が転がり、護岸が壊れている様子が目につきます。しかし、工事のための「ちようはり」がかりはじめ、ブルドーザーやバックホーの工事用重機が河川の中で動いているのを見かけるようになります。いよいよ河川関係の復旧工事が始まりました。

河川関係の災害復旧

公共土木被災は、重要な生活路線から順次復旧を進めてきました。農業施設等の被災は、農作業の春耕時を目処に総力で復旧を進

めました。(国査定、町単あわせて) 機関のけんめいの努力と暖冬という気象条件に恵まれ、本年度の六月末にはそのほとんどを終えることができました。

良復旧事業というかたちで進めています。

災害復旧事業は、原形復旧を原則とする事業です。被害が大きく広範囲にわたる場合、個々の原形復旧だけでは事業の効果も限定されてしまうことがあります。改良復旧事業は、このような場合災害にならなかつた箇所も含め一連区間について再度災害防止と安全度の向上確保のために整備をはかる事業としてあります。そして、災害復旧費に同程度の改良費を加えて改良復旧を行うことができます。災害復旧助成事業・関連事業は、この改良復旧事業の中の事業です。

災害復旧助成事業の推進

災害復旧助成事業は、県が事業主体で五月から実施しています。黒沢川をはじめ宿内川、永沢川、キッツ川の沿線は、全域にわたる大きな被害を受けました。この被災の復旧は、原形に復旧するより将来に向けて災害を防止していくことが望ましいと災害にならなかつた箇所も含めて一連の区間を一定の計画に基づき改良復旧していくように計画申請していました。その計画が採択になり、災害費とは別に改良費も認められました。通常の河川改修ですと五十年もかかる大事業ですが、災害復旧助成事業を採択されたことにより三年から四年で改修されることになりました。

地権者の協力

災害復旧助成事業は、原形復旧でないところにかえて事業のむずかしさを含んでいます。いずれにしても災害復旧ですから、河川中や河川線形等構造的な問題、調査設計、用地取得等を短期間に解決し復旧にあたらなければなりません。県の場合、災害復旧助成事業とキッツ川の災害関連事業の四河川で、計画延長十三線、用地取得面積四十万平方メートル、地権者百八十人と広範囲にわたります。とりまじめなにかかって時間がかかりました。なんといっても地権者の意向が、一番問題になりました。将来に向けた復旧ということで最後は一致

河川関係の災害復旧事業始まる

河川災害復旧助成事業・関連事業、団体営土地改良総合整備事業



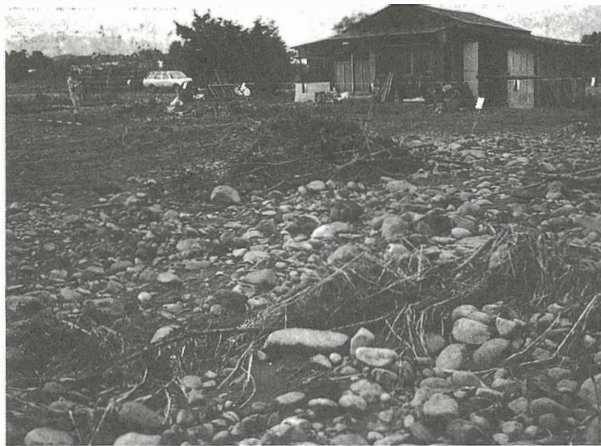
復旧工事を待つキッツ川上流

前年八月のみぞうの集中豪雨による災害があつてから、早や一年がたとうとしています。災害復旧
工事は、関係する機関・団体が総力を上げてあたり、急ピッチで進められその大部分を終えていま
す。災害復旧で残っているのは河川、溜池復旧です。河川関係については、河川災害復旧助成事業、
河川災害関連事業そして団体営土地改良総合整備事業で、それぞれ復旧および整備を開始しています。

災害復旧の状況

前年の八月末の災害では、今まで見たことのない災害の状況が目の前に繰り広げられました。被災状況の中でも、公共土木施設と農業施設等の被害は、すさまじいかりでした。被災の状況は、町が

事業主体となる事業だけを見ると次のとおりです。公共土木等の被災カ所は百五十一カ所で復旧事業費は約二十八億円、農林業施設等の被災カ所は四百五十一カ所で復旧事業費は約十五億円にも及び



復旧前



復旧後(寺網川原)

農地等災害復旧は、その大部分を四月末を目標に復旧工事を終えるように町、各改良区、事業所等関係機関が一丸となって急ピッチで進められています。

農業施設の災害は、町が事業主体分については、国査定分三二四箇所(区画整理二箇所)、町単独八箇所、小災害一五〇箇所となっており、県の事業主体分二箇所を併わせると合計四七四箇所となっています。これを国査定分について農業施設ごとにとみると、頭首工二十箇所、水路工百五二箇所、水田八五箇所、その他(農道、農業

用揚水機、農業用ため池等)五七箇所という状況です。

この農地等災害復旧事業費は、総額で三十三億五千四百六十二万五千円となっています。金ヶ崎町は、昨年十月に激甚災害の指定を受けましたから、国査定分の復旧事業は事業費の九〇%の高率補助を受けての工事となりました。

農地等災害復旧工事を進めるにあたっては、暖冬に助けられはしたもののいくつかの点で厳しいものがありました。

一つは、農地等災害復旧工事はほとんどの着手が国の災害査定以

後でなければならなかったことです。この国の災害査定は、十月から十二月まで第九次査定まで行なわれ、その対応に、関係するほとんどの職員が不眠不休であたりました。その後、やっと本格的な工事着手が制度的にも時間的にもかなくなりましたが、春耕時までという短期間の工事完了は工事量からみてもかなり難かしいものであります。

二つ目は、資材不足です。昨年の八月末の集中豪雨災害は金ヶ崎町だけではありませんでした。金ヶ崎町全体だけでも、総被害額は二〇〇億円を越えています。この工

事量の発注が、一時期に集中したのですから、資材が不足したというのうなずける話です。

三つ目は、人夫不足です。この理由は二つ目と同じです。

こうしたことにより工事は若干遅れぎみのところがあります。農業施設の中で水田の復旧が少し遅れぎみです。一般的に災害復旧の工法として、頭首工や水路等の構造物を設置する際には、水田に仮設道路を作って工事を行なうため水田の復旧がどうしても後になってしまつたためです。

現在、やっと農地等災害の大方の復旧の見通しができました。後世に悔いを残さないようにと公共土木側の河川災害関連事業と併わせ復旧や又、区画整理を計画しているところ等一部は今春中に災害復旧が終わらないところもあります。ほとんどは、春耕時期に合わせて農地等災害復旧を完了する予定となっています。

山路町長は、今、町政の一番の課題は災害復旧です。と事あるごとに言明しています。

町、改良区、事業所等関係機関として災害復旧を請負っている業者も含めて、総てが全力で農地等災害復旧にあたっています。

苗は、既に準備し、田植えはいつできるのかと気がせいである農家の方々も多いかと思われませんが、もう少しです。

ひと安心

しました



伊藤 国治さん
(63才 上永沢)

まず、おかげさまでした。災害が起きた時はびっくりしました。昨年は、親戚から米をわけてもらって食べましたが、今年は自分の田から米が食べそうです。早く復旧してもらって本当にうれしい。おかげさまでした。

おかげさん でした



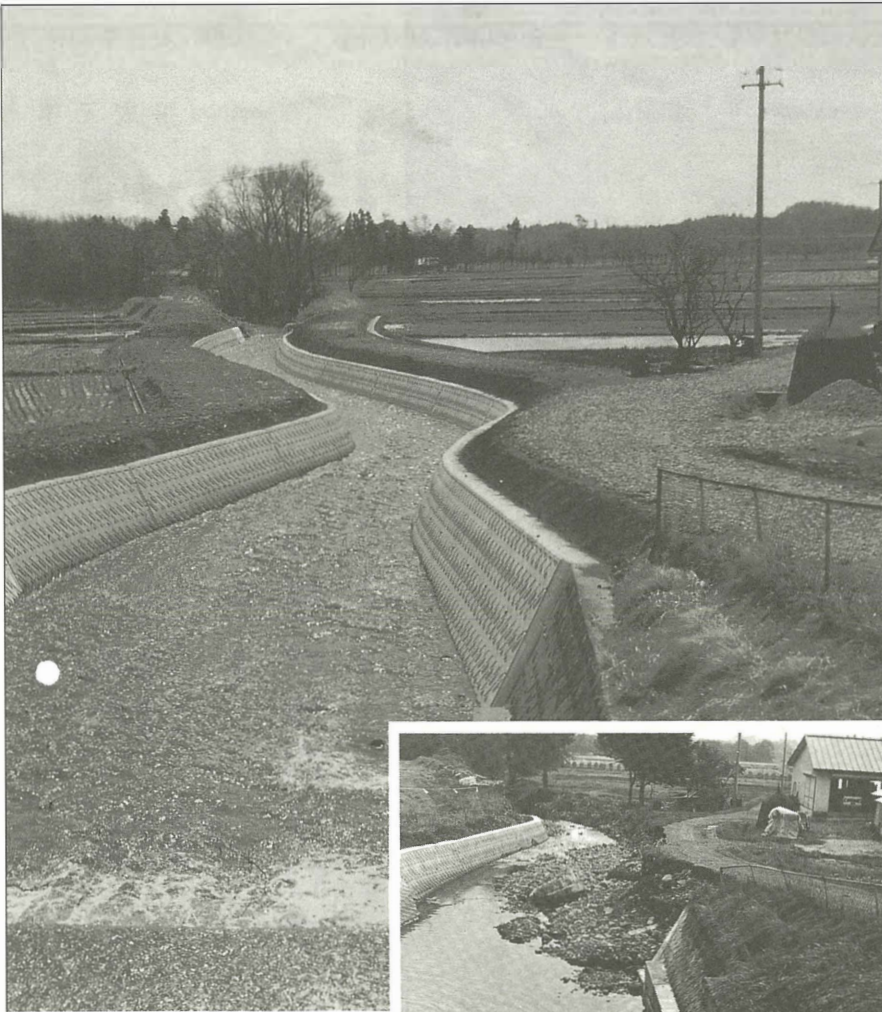
鈴木カヨ子さん
(56才 野崎)

おかげさんでりっぱにしてもらいました。

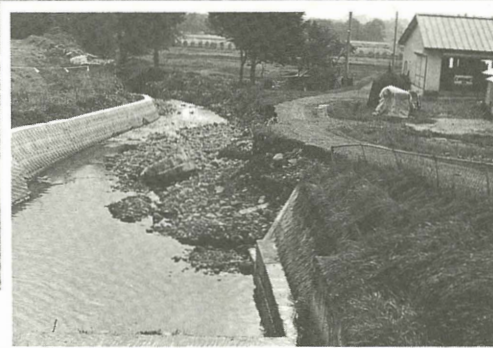
ここは、昔から少しづつつくずされてはきたところだったがあんなにがっばりとやられるとは……。これから安心して農作業ができそうです。

集中豪雨

農災復旧春耕時めざして



復旧後(野崎)



復旧前

川目の坂水地区のヒューム管や大きい石がゴロゴロ転がっているのを見ると、昨年八月末の集中豪雨による被害のものがすこさを今でも思い出させます。

集中豪雨の災害後、被災した農

家の人達は、かつて味わったことのない苦渋の『収穫』の秋を向かえることになりました。被災農家にとって、新たな春を向かえるにあたり、「今年こそは——」と春耕に期待を寄せるところです。

総ての関係機関が全力投球

ます。

係機関が全力で農地等災害復旧にあたつてい

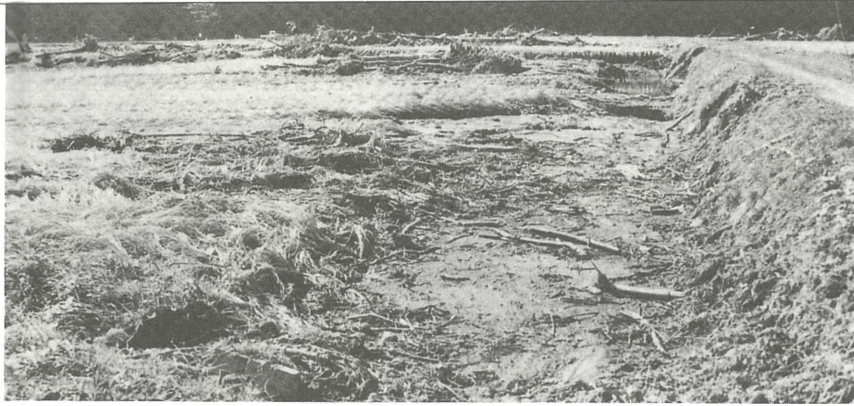
春耕時期にまにあつたようにと町をはじめ関

で四七四件(二月末現在)にもほつています。

つて実施する農業施設の災害復旧は、ぜんぶ

よいよ大詰となりました。町が事業主体とな

春耕時期を目前にして、農地等災害復旧もい



来春の作付に間に合わせたい農業施設の復旧

請がありましたので、現在検討して
います。条例制定をしなければ
なりませんので、できるだけお知
らせたいします。
考え方の基本は次のとおりです。
小災害の分類
A型 十～三十万円
B型 三～十万円
申請の手続き

- ①土地改良区（共同施行含む）
に申請し、それを土地改良区が
取りまとめ町に申請してくださ
い。
- ②その際は必ず災害現場の写真

受益者負担はわずか

災害復旧に要する受益者の負担
はわずかで済みます。査定額から
割り出すと十町当たりの農地復旧
費は、概算平均で五十万円です。そ
の直接負担は、次のようになります。
○国の補助金は九十割で四十五
万円です。
○残額の五万円から借入金（町
の起債）四万円を差し引いた
一万円ぐらいが受益者の直接

来年は災害復旧本番

今年には正に悪夢の年でした。未
曽有の水害、さらには近年にない
異常気象冷害とダブルパンチにあ
いりましたが、水害にあつては、国
や県の指導で、また、町民の皆さ
んのご協力によって、物理的に困
難をきわめた四百九十三箇所の査
定も順調に進み、多額の国家投資
（大体九〇割）の助成見込みがた
ちました。
来年は災害復旧の本番の年であ
ります。災害復旧は当面、町政の
最重要課題と受けとめ、総力をあ
げて取り組んで参ります。

を災害の証明として添付してく
ださい。
申請期限
昭和六十四年一月十五日

の負担金です。
以上のように十町当たりの直接
負担は一万円ぐらいになりそうデ
す。災害のひどいところで仮に十
町当たり百万円かかるとしますと、
受益者が直接負担する額はわずか
二万円ぐらいで済みそうです。
この負担金は、個々の実施設計
に基づいて分担金条例によって賦
課徴収することになります。

町民と町が一体となつてはじめ
て難局を切り抜けることができる
と信じ、これからも皆さんご協
力をお願いいたします。
災害復旧は町民の、町の安全を
守るための基盤造りであります。
後世に悔いを残さない、惜しみな
い努力に努め、子孫のために誇り
得る事業を進めていきたいものデ
す。
今年も残すところわずかになり
ました。健やかでよい新春をお祈
りいたします。

国の災害査定結果 昭和63年12月20日現在

(単位：箇所・万円)

区 分	事業主体	施 設 名	箇所数	査定額	改良費	計(事業費)	事業費の負担区分				備 考
							国 費	地方債	分担金	一般財源	
農 林 業 施 設	町	農業施設	2	178,659	-	178,659	-	-	-	-	千貫石・機引沢溜池
	"	農 地	99	44,006	-	44,006	39,606	3,520	880	-	
	"	農業施設	215	93,486	-	93,486	84,137	7,479	-	1,870	
	"	林 道	2	3,085	-	3,085	2,622	370	-	93	
		計	318	319,236	-	319,236	-	-	-	-	
土 木 施 設	県	河 川	45	393,769	337,614	731,383	-	-	-	-	
	"	道路橋梁	7	4,102	-	4,102	-	-	-	-	
	"	小 計	52	397,871	337,614	735,485	-	-	-	-	
	町	河 川	35	159,847	84,442	244,289	148,839	86,990	-	8,460	
	"	道 路	54	28,457	-	28,457	18,981	9,470	-	6	
	"	橋 梁	27	28,832	-	28,832	19,231	9,600	-	1	
	"	小 計	116	217,136	84,442	301,578	187,051	106,060	-	8,467	
		計	168	615,007	422,056	1,037,063	-	-	-	-	
学 校 施 設	町	第一小校庭	1	331	-	331	91	40	-	200	補対額 136
上 水 道 施 設	"	配水管等	10	4,446	-	4,446	1,134	-	-	3,312	補対額 2,268
有線放送施設	"	細野幹線	1	125	-	125	-	-	-	125	
	町 合 計	444	362,615	84,442	447,057	314,641	117,469	880	14,067		
	県 合 計	54	576,530	337,614	914,144	-	-	-	-		
	総 合 計	498	939,145	422,056	1,361,201	-	-	-	-		



国の災害査定が終わる

総額百二十六億一千二百万円

町の事業費44億7千万円

十月三日から始まった国の災害査定は、公共土木関係が第三次から第五次まで、農林業施設関係が第一次から第九次まで、一週間の間に十二月八日までの六十六日間

にわたる全作業をようやく終了しました。その結果は、左表のとおりです。その概要は驚くほどの巨額なものになりました。

農業施設は作付までに

災害復旧工事はこれから本格的に始まります。実施設計ができた場所から発注していきます。既に発注したのは、公共土木が四十三件で発注率が三七・六割、農業施設が十七件(二十八地区)で発注率〇・〇五割という状況です。

残りの箇所は、年明けになります。いずれにしても実施設計がまとまらなければ発注できません。

小災害も救済の対象に

災害査定は三十万円を超えるのが対象であり、その対象外の小災

害(三十万円以下)については、議会から救済対策を講ずるよう要

66日間にわたる国の現地査定は486箇所の全てを終了

町営分と県営分を合わせた公共土木と農林業施設の査定は、四百八十六箇所、九十三億四千二百四

から、合わせて四十二億二千五百六十万円です。

査定額と改良費を合わせると百三十五億六千二百九十九万円という巨額な復旧事業費になりました。この金額のうちの河川改良費は計画概要の数値で、現在実施設計中のため多少額の変動があります。

あまりにも災害箇所が多いため、設計業者に委託しており、できるだけ早く着工するように進めます。全工事を年度内(三月三十一日まで)に発注を完了したいと努力しているところです。

特に農業施設においては、来春の作付に間に合わせたいと総力をあげて取り組んでいます。



坂水地区は自ら歩いて被害状況を見る佐藤農林水産大臣（右側前列）

災害に対する計画概要額は、河川改修で約九十億円、一般土木、農林施設合せて約六十億円、合計百五十億円の巨費が投下の計画でその殆どが国の負担であり、大変有難いことであります。しかもこの事業の災害復旧は三年、河川改修は四、五年で完成する予定になっております。

以上のように多額の国家資金が災害復旧並びに河川改修に投下の道は拓けましたが、その受入れの可否の決定は町民みなさんの意志に委ねられております。

もとより災害復旧は、原形復帰が原則であります。しかしそれは、将来に向けて改善された復旧が基本であります。前回の広報で

後世に悔まな い復旧努力を

「この度の禍を福に転ずる道を模索すべきである」と述べました。この度の教訓を活かし後世に悔いを残さない努力が吾々の責務であります。

災害復旧といっても、いわば町の町民の安全を守るための基盤整備であります。しかもこれだけの多額の国家支出を許容しようとする温かい配慮を受け入れないということがあつてはむしろこっけいであるし、国に対し誠に礼を欠き、申し訳ないこととなります。

いろいろな問題があるとは存じますが、それを乗り越える英知、良識の発揮が望まれる正念場にあります。子孫のため、後世のため悔いのない選択を期待いたします。

事業主体	河川名 事業名
岩手県	宿内川 災害復旧助成事業
	黒沢川 災害復旧助成事業
	永沢川 災害復旧助成事業
	キッツ川 砂防災害関連事業
	計
金ヶ崎町	永沢川(蜘蛛頭地区) 河川災害関連事業
	石持沢川・小湯沢川 河川災害関連事業
	黒沢川(二渡地区) 河川災害関連事業
	計
合	計

額国、県で負担をいたします。

町主体事業分は国庫補助、町費であります。これは普通災害の補助率で算出しておりますが、激甚地の指定になりますと補助率が上がり町負担分は、大巾に減ります。

また、地方債は災害資金を借り入れ、その償還金は、交付税で充当されます。

寄せられた見舞金

5,222,823円



十月二十八日以降に寄せられた見舞金は次のとおりです。

- 役場課長補佐会：十万円 水沢
- 市管理職職員会：六千円 大通り
- 自治会：三万五千元 百岡報徳会
- ：三万円 町立園長会：六千円 チ
- エリ―美容室：一万円 栄町納税
- 組合：一万三千元 荒巻行政区住
- 民一同：三万四千三百円 県有線
- 放送協会：一万円 自治労運動推
- 進岩手県本部：四十万円 佐藤と
- き子：五万円 木村良雄：一万円
- 平林農道完工祝賀協議会：三万円

表Ⅲ 災害河川改修計画概要

昭和63年11月8日現在

延長 幅員 (m)	事業費			負担区分					地権者 同意数
	災害費	改良費	計	国庫	地方負担額		左のうち地方債		
					県	町	県	町	
L=3, 315 W=21.6	千円 787,685	千円 837,127	千円 1,624,812	千円 943,686	千円 681,126	千円	千円 613,000	千円	47人
L=5, 225 W=60.5~26.5	1,508,271	1,795,116	3,303,387	1,903,072	1,400,315		1,260,200		73
L=2, 115 W=20.6~22.6	735,264	431,903	1,167,167	706,127	461,040		414,900		23
L=2, 035 W=33.2	480,000	312,000	792,000	476,000	316,000		284,400		40
	3,511,220	3,376,146	6,887,366	4,028,885	2,858,481		2,572,500		183
L=1, 180 W=9.0	339,000	70,000	409,000	261,000		148,000		133,200	11
L=3, 390 W=8.2~22.2	640,000	474,000	1,114,000	663,666		450,334		405,300	28
L=783 W=7.0~17.0	277,000	100,000	377,000	234,666		142,334		128,100	2
	1,256,000	644,000	1,900,000	1,159,332		740,668		666,600	41
	4,767,220	4,020,146	8,787,366	5,188,217	2,858,481	740,668	2,572,500	666,600	224

- 注 1) この表は、国(建設省)への「改良復旧事業要望書」によるものである。
 2) これに基づいて実施設計が進められている。
 ・実施測量により個々の面積が判明することにより、いろいろな問題が出てくることが予想される。
 ・問題解決には町の総力をあげて取り組んでいく所存である。
 3) 実施測量、実施設計により事業費に異動がある。
 4) 国庫補助金は災害費2/3、改良費1/2としており、地方債充当率は90%としてある。

河川改修に地権者の協力を

河川改修については、宿内川、黒沢川、永沢川、ギツ川は県が事業主体で、また、永沢川(蜘蛛頭地区)、石持沢川、小湯沢川、黒沢川(二渡地区)は、町が事業主体で抜本的な改修を進めます。既に概要計画は国の査定において了承を得て、現在実施設計のための実施測量中であります。このことに対しましては、多くの地権者のご理解とご協力を頂いており、心から深く感謝申し上げます。

広い町内を一個所一個所見て廻るので、査定官も大変であります。それに伴い土地改良課の職員は、査定が順調に進むように概要設計書を作り間に合わせなければならぬし、また案内、宿泊の手配などに忙殺され通してあります。第七次(十一月十九日まで)査定の結果は、表Ⅱの通りであります。一般土木については、その後査定はありません。十一月二十一日から十二月始めにかけて実施される予定になっております。災害復旧工事については既に予算措置が済んでおり、直ぐにも発注したいと急いでおります。しか

ろであります。実施測量の結果、個々についていろいろの問題が出てくるものと思われませんが、大乗の見地からのご協力を賜りたいと存じております。また町としても総力をあげて対応、対処して参る考で、一体となって問題を解決し、後世に悔いを残さないよう努力して参る所存であります。河川改修計画概要は表Ⅲ、図Ⅰの通りであります。

し、査定を受けるための概要設計及び実施設計は業者に委託しておりますが、査定を受ける準備に忙殺され、実施設計まで、手が廻りかねておる状況であります。誠に残念ながら遅々として進みません。実施設計の出来た分から少しづつではありますが発注いたしております。本格的な発注は十二月に入ってからになります。一般土木は、十一月二十日、農林関係は十一月二十五日に実施設計の出来た分の発注をいたしました。残りについては、十二月に入ってからになります。

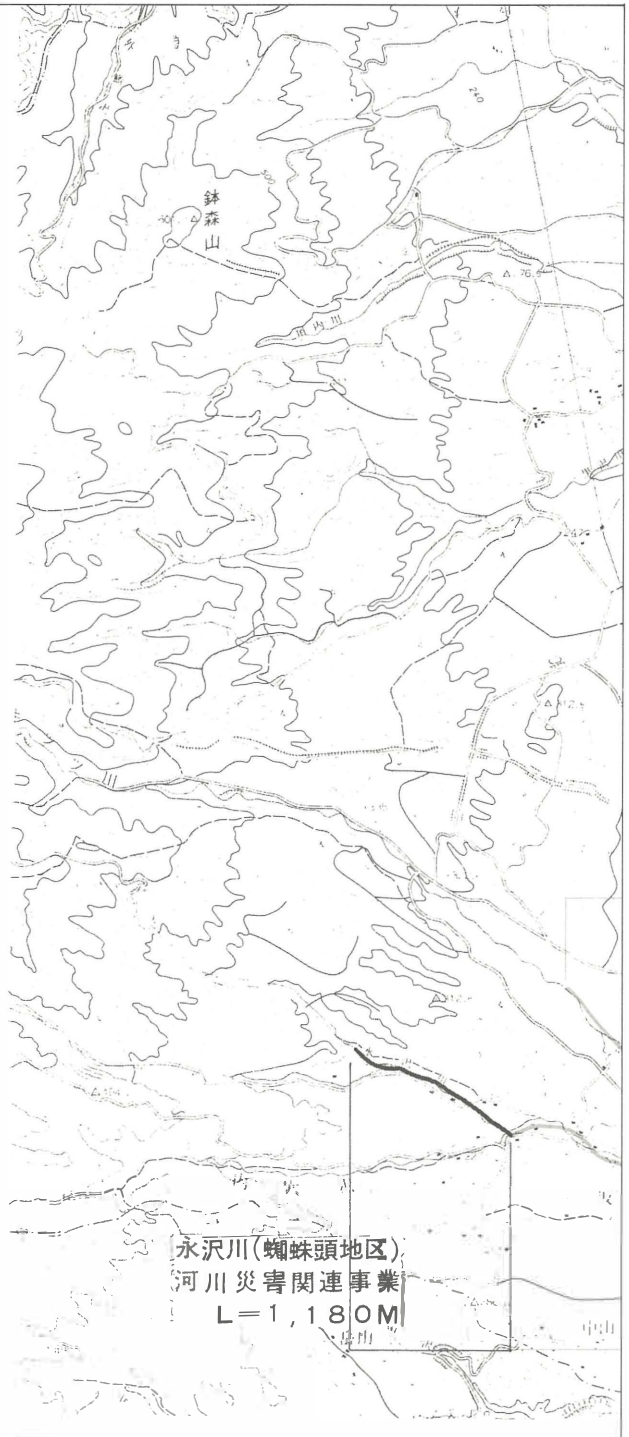
本格的な工事は 十二月から

農林関係の査定は、十月三日から毎週交替で実施されております。実施査定は、災害個所の概要設計を組み、それを基に、査定官が現場に足を運び、一つひとつ災害状況を判定してゆく作業で、その決

でありませんが、査定状況からみて大丈夫指定になるものと予想されます。農林関係が激甚地区指定になったことにより復旧事業費に対し、

九十%の助成があります。例えてみますと、流失、埋没した農地(田、畑など)の復旧事業費の概算額は表Iのとおりになります。

定額が査定額で助成対象でありませぬ。従って査定に入らない個所は助成対象にはなりません。この査定は十二月十日で完了する予定になっております。なにしてる四百個所に乃ぶ農林災害であり、



表II 農林関係災害査定状況

(第7次査定分まで)

種別	申請		査定分		査定率	備考
	箇所	金額	箇所	金額		
農地	69	258,347	69	254,683	98.58	
農業用施設	159	1,800,326	159	1,577,225	87.60	仮査定1ヶ所を含む千貫石溜池 982,571千円
計	228	2,058,673	228	1,831,908	88.98	
林道施設	8	31,858	7	30,851	96.83	
計	8	31,858	7	30,851	96.83	
合計	236	2,090,531	235	1,862,759	89.10	

注・査定の実施状況は、総箇所数283箇所(総数は404箇所であるが小さい災害は合併処理した関係で283箇所となった。)で、実施済みは235箇所で実施率は83.03%であります。残り48箇所は、11月21日~26日・12月5日~10日において完了の予定であります。

長、防災課長補佐、災害対策室長、災害対策室長補佐一人、調整係長、参議院議員(土地改良関係) 梶木又三郎・岡部三郎。衆議院議員小沢一郎、椎名素夫。昭和63年発生災害関連事業の本要望事務打合せ出席(建設省防災課・県土木部・金ヶ崎町・岩手町・滝沢村)
 11月10日 県農地建設課長と復旧工事促進・調査設計費助成について協議
 11月14日~19日 農林関係第七次査定
 11月15日~19日 農林関係第七次第二班査定

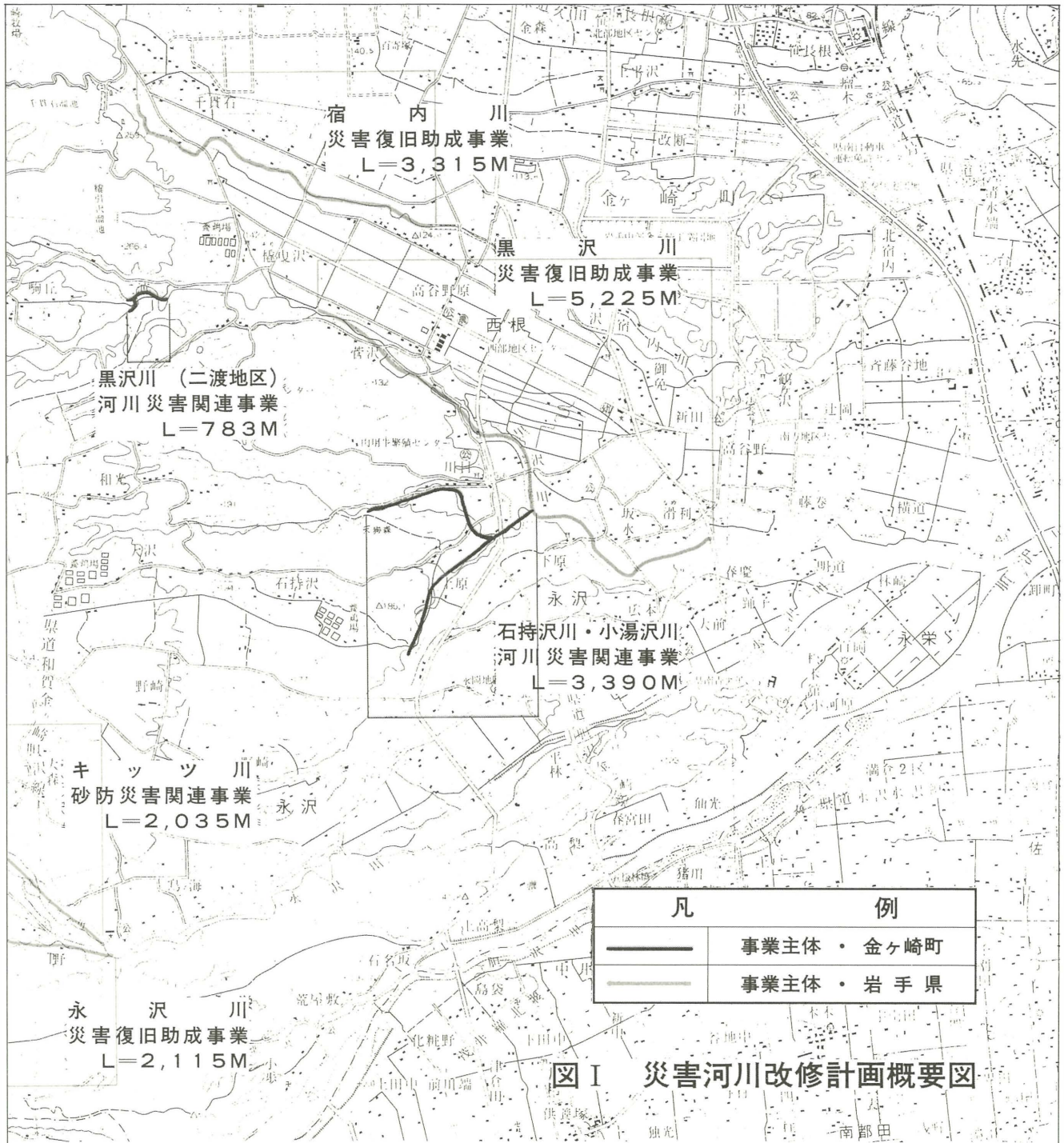


図 I 災害河川改修計画概要図

- 長(衆議院議員小沢一郎代理高橋秘書
 10月31日~11月5日 農林関係第五次査定
 11月1日 建設省、大蔵省陳情
 ・激甚一般公共指定について
 ・早期着工について
 ・河川改修について
 建設省官房長、河川局長、河川局次長、河川総務課長、河川総務課長補佐、治水課長、流域治水調整官、建設専門官、建設専門官補佐四人、防災課長、建設専門官補佐五人、総括災害査定官九人、大蔵省主計官長、主計局次長(担当)、主計官(公共担当)、公共事業第三係主計官補佐係長。
 11月2日 土地改良区理事長会議
 ・復旧工事の促進について
 11月4日 災害復旧工事入札
 農地建設課長に陳情
 ・調査設計費助成について
 11月7日 第一小学校家庭災害査定
 11月7日~10日 農林関係第六次査定
 11月8日 農林水産省・大蔵省陳情
 情
 ・農林関係激甚指定お礼
 ・調査設計費助成について
 農林水産省農林水産大臣、構造改善局長、構造改善局次長、総務課長、総務課調査員、総務課長補佐、総務課予算班、防災課



橿曳沢溜池の被害説明を聞く佐藤農林水産大臣（中央）

佐藤農林水産大臣が災害現地視察のため、10月29日に当町を訪れ、橿曳沢溜池と川目の被災地を見て回りました。

午後2時47分水沢江刺駅着の新幹線で駅に着いた農相は、出札口に出迎えた山路町長と握手を交わしたあと、用意された乗用車に乗り込み橿曳沢溜池へ直行。沿道で出迎える住民へ手を振って応えていました。

橿曳沢溜池では被害状況の説明を受けたあとの会話で、山路町長が「復旧に首をにかけている」と伝えると佐藤農相も「それは私も同じ、一れんたく生だよ」との答えに、一行の緊張が和らぐひと幕もありました。

続いて川目の坂水地区では自ら300mほど歩いて視察、被害状況の図面はめがねをかけて熱心に説明を聞いていました。

このあと、中央生涯教育センターで、県内全体の被害状況を佐々木副知事が説明し、農政部長が陳情。最後に30分ほど記者会見して午後5時30分に帰京しました。

表 I 農林関係の復旧事業費の概算額

(工事費を100万円と仮定した場合)

(単位：千円)

工事費	助成金	自己負担金のうち災害借入金	直接負担金
1,000	-900	-(100×0.8) 80	= 20
	90%	自己負担金の80%借入金	手持負担金

注・自己負担金のうち80%は災害資金の借入ですが、この償還は町が返済することになり受益者の負担にはなりません。

・受益者の負担は100万円に対し僅か2万円であります。

最重要の問題として考えており、ました激甚地区の指定については、農林関係は十月二十八日官報告示

で指定になりました。一般土木においては、今までの例によりまずと一月中旬頃のよう

激甚指定を受けた農林関係

10月22日以後の対策活動

- 10月24日(29日) 農林関係第四次査定
- 10月25日 農林関係災害激甚指定閣議決定
- 10月26日 臨時議会
- ・異常気象(冷害) 減免条例議決
- 黒沢川改修について地権者と協議
- 10月27日 農林関係災害激甚指定告示(官報)
- 10月29日 佐藤農林水産大臣災害地視察 随行者(武田大臣官房参事官、内藤構造改善局次長、坂本防災課長、田原秘書官、東北農政局浜田局長、小松生産流通部長、中島建設部長、井上防災課長、若手県佐々木副知事、佐藤県議会議長、高橋総務部次長、土橋消防防災課長、中野農政部長、柳田農政部長、八重樫農政部長、千葉農政企画課長、岡野農地建設課長、大石農業経済課長、佐藤農畜課長、天田林業水産部長、佐々木議事課長。
- 立会者(衆議院議員椎名素夫、衆議院議員沢藤礼次郎(衆議院災害対策委員)、参議院議員小川仁一(参議院災害対策特別委員)

収穫は三分の一



高橋隆吉さん
(野崎)

二十八日の夜は雨が激しく雷も強く、中々眠れない母がまず庭を見たと、田んぼなどで見かける緑の浮草が流れて行くのを見て洪水に気づいた。それが夜中の十二時。それから近所の人たちを起こした

り、床下の通気口を肥料袋でふさいだりして水を防ぎました。でも庭はひざまで水位が上がリ、土は流されてしまいました。水量が一番多かったのは翌日の午前二時ごろです。田んぼの被害も受け、ワラとしては使えず、コンバイン刈りをしましたが、米の収穫も三分の一程度でした。

避難するのがやっと

孫が騒ぐ声で目を覚ましたら寝ていた布団がぬれ始めたところでした。もう突然のことで気が動転



高橋ナツさん
(細野)

し、避難するのがやっと。家の回りはひざ上までの水かさに浸かり、引き戸がずれ、電気は切れてつかないの、ローソクの明かりをたよりに急いで身支度をして、息子におぶさって傘をさしながら前の家に避難したのが夜中の十二時前でした。そのあと水はいっしゅ

復旧に助成を

んのうちに引き始めました。山の木も畑も流され、稲は土砂に埋まったので想刈りをして少しでも多くの収穫をと思っています。

二十九日の朝は、店内の冷蔵庫やアイスストッカーは水に浸っていてブレイカーがおちていました。表に出ると県道を越えた水が庭に流れ込んでいて、ひざより深いくらいでした。部落の人たちの手伝いを受けて土のうを積んで流れを変える作業をしました。庭の土



畑中喜作さん
(遠谷市)

は、自己負担なのでいくらかの助成があればと思います。

砂は休耕田へ流され、自家水道のポンプや冷蔵庫、ボイラーなどが壊れてしまいました。土砂を取り除くのにブルを頼んだり、電気器具の入れ替えや修理にけっこう経費がかかりました。これらの復旧

見通しが立ってきた災害対策

その後の災害対策であります。最近漸く見通しが立ってきました。執行機関と議会が一体となって、県や国の機関(国土庁、自治省、大蔵省、建設省、農林水産省及びその出先機関、東北地方建設局、東北農政局、東北財務局等)に陳情を続けて参りました。特に県においては、最激甚被災地の金ヶ崎を最優先に取り扱って頂いており、また、国においても、農林水産大臣が直き直き

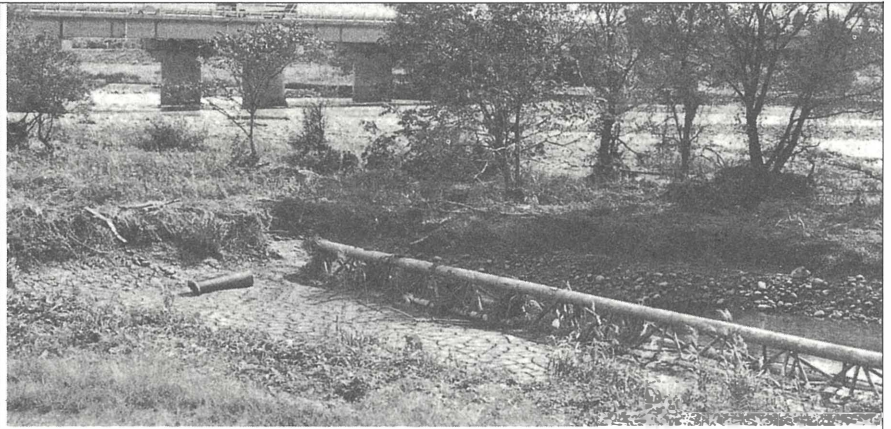
十月二十九日わざわざ金ヶ崎町の災害地を視察に参るなど大変重視されておりますことは、有難く、感激に堪えないところであります。当初は、余りにも壊滅的な被害で、何から手をつけてよいやら全く見当もつかない状態でありましたが、県や国の指導により、一つひとつその対策が進みつつあります。

お見舞いありがとうございます

9月21日～10月21日

町建設業協会：十万円 檀原自治会：三万円 農業管理センター：五万円 田口事務所：三万円 水沢ライオンズ：五万円 横道上自治会有志：八万六千二百円 富士通若手工場：五万円 富士通労働組合若手支部：五万円 栄町自治会：三万円 日本電気若手支店：三万円 町農業委員一同：五万円 傷痍軍人会金ヶ崎部会：二万円

青木利：五万円 水沢ガス：十万円 水沢ガス商事：十万円 高橋洪一：一万円 北方能野神社氏子一同：二万円 金ヶ崎タクシ：十万円 小野幸宣：十万円 町議会議員一同：十一万円 飯坂重雄：十万円 町教育委員一同：二万五千元 後藤辰：三万円 岩手県西部特定郵便局長会：四万七千元 町農協青年部：十二万円



川原田橋に架かる水道管は700m下流に流

表V 災害箇所査定予定表

区分	月日	ヶ所数	摘要
公共土木施設			
一般土木			
第3次査定	10月4日・5日	43ヶ所	道路37ヶ所、橋梁6ヶ所
第4次査定	11月21日	36ヶ所	河川17ヶ所、橋梁8ヶ所
第5次査定	11月28日	36ヶ所	河川17ヶ所、橋梁13ヶ所
計		115ヶ所	
農地農業用施設			
第1次査定	10月3日～10月8日	14ヶ所	
第2次査定	10月11日～10月15日	50ヶ所	
第3次査定	10月17日～10月22日	50ヶ所	
第4次査定	10月24日～10月29日	50ヶ所	
第5次査定	10月31日～11月5日	50ヶ所	
第6次査定	11月7日～11月12日	72ヶ所	
第7次査定	11月14日～11月19日	72ヶ所	
第8次査定	11月21日～11月26日	33ヶ所	
計		391ヶ所	

町を荒廢のままさらすことは、許されない。困難を打破し、六十億の巨費を捻出し、五百六カ所の災害を早急に復旧し、元の姿に戻すことは、よそ人がやるのではない。現在に在る苦々一万六千町民自らの手でやらなければならない義務が、責任があることを忘却して

はならない。この達成は、全町民が一致団結一丸となってあたり、はじめて成るものと信ずる。私は、行政執行の責任者として決意をあらたにして先頭になつし、町民のみなさんの奮起と協力を乞い願う。

八万円、合計五千四百九十七万二千元。
 ・見舞金条例制定六百万円。
 ・災害復旧予算可決(一般土木費八億三千二百七十九万三千円、農業用施設費十一億六千三十二万円、計十九億九千三百一十一万三千円)
 10月1日 人事発令(土地改良課設置に伴う関連人事異動による)
 10月4日 災害査定始まる。その日程は表Vのとおり
 ・公共土木関係四日～五日(第三次査定)
 ・農地農業用施設関係三日～八日(第一次査定)
 10月6日 水害被災地の写真をPRのための貼り出し(水害被災地の写真をPRのため建設省、農林水産省、自治省、国土庁、自民党本部に貼り出した。)

見舞金が120万円 災害対策に活用

この度の災害に対し、町内町外の各方面の多くの方がたから心温まる多額の見舞金が寄せられ、感激に堪えない。中には、貯金していた小使いを寄せてくれた子供もいたとか、涙の出る思いであった。その額は十月十日現在で、七十四件、四百八十八万五千八百六十円にのぼる。
 これは、町の歳入に入れて災害対策に活用する方針であり、深謝し、報告にかえる。

沢藤衆議院議員、菊池県議、那須川県議、志賀衆議院議員(電話)、椎名衆議院議員(電話)、水沢市長、衣川村長、江刺市助役、館沢県議、水書見舞。
 9月2日 県議会より実態調査、那須川、及川、菊池、佐藤県議。水沢地方振興局長、地方振興課長補佐同行。
 農地建設課長、防災課長実態調査。
 9月3日 小川参議院議員現地視察。
 9月9日 農政部柳田次長実態調査。
 農政部畑作振興課長、総務部長、地方振興課長現場視察。
 9月11日 椎名衆議院議員来町。
 9月13日 参議院災害対策特別委員会小川委員長、同高橋委員、国土庁防災局防災事務課長木挽孝紀、農林水産省構造改善局建設部防災課災害対策室長山口保身、林野庁指導部治山課森林土木専門官梅坂末雄、建設省河川局防災課総括災害査定官下野均、参議院建設委員会主任調査員佐藤勝、参議院参事加藤賢一、東北農政局次長坂柳迪夫、東北農政局建設部防災課長井上明夫、総務部消防防災課長、農政部柳田次長、農地建設課長、農村振興課佐藤首席専門技術員、林業水産部森林土木課長、水沢地方振興局長、北上地方振興局長、水沢市長、胆沢町長、前沢町長、衣川村長、北上市長、和賀町助役、江刺市助役、災害現場視察。



されていた

農業施設、公共施設など391カ所を国が災害査定

得推定額の百分の十を超えた査定額
 農地農業用施設・林道施設の被害額は三十三億五千七百円である。町の農業所得推定額は五十七億九千二百七十二万九千円(六十一年度)の百分の十は五億七千九百二十七万三千円である。これは二十割位減つても大丈夫であると思われる。
 以上の基準を超えた被害額(査定額)でなければ激甚指定にならず、公共土木施設で二十割を削減されると、十五億九千四百四十万円、誠に微妙なところにある。
 (一)、かんがい水の確保について
 査定が終わり、補助指令を受けて

表Ⅳ 復旧資金計画

(単位:千円)

区分	項目	復旧工事費	資金計画		
			国庫補助	起債	その他
公共施設					一般財源
公共土木	工事費	1,993,500	1,329,000	631,200	33,300
	設計費	79,740			79,740
	計	2,073,240	1,329,000	631,200	113,040
水道	工事費	70,000			70,000
	計	70,000			70,000
有線	工事費	1,502			1,502
	計	1,502			1,502
火葬場	工事費	200			200
	計	200			200
学校施設	工事費	1,070	713	300	57
	設計費	60			60
	計	1,130	713	300	117
小計		2,146,072	1,329,713	631,500	184,859
農業施設	工事費	3,357,000	2,182,050	939,900	78,350
	設計費	134,280			44,760
	計	3,491,280	2,182,050	939,900	123,110
小計		3,491,280	2,182,050	939,900	246,220
合計		5,637,352	3,511,763	1,571,400	431,079

災害復旧に賭ける

先人が悠々の努力により、一日一日営々として創りあげた金ヶ崎

(一)、河川改修と関連について
 ①河川改修は、この度の災害を禍とせず福に転ずるため抜本的に改修する方針である。そのため地権者の協力の成否に左右するおそれがある。

(二)、河川改修に賭ける
 ②改修による河川敷が決まらなければ、田の整理並びに復旧に着手できない面があり、そのため若干の遅れが促進の障壁になる懸念がもたれる。

(三)、河川改修と関連について
 ③河川改修は、この度の災害を禍とせず福に転ずるため抜本的に改修する方針である。そのため地権者の協力の成否に左右するおそれがある。

(四)、災害査定促進について
 早期に復旧工事に着手するためには、なんとしても、災害査定促進に努めてはいるが、国のペースに、待つ以外にはなく査定しやすいように調査設計の整備をすることにあるが、これまた公共土木・農業施設合わせて五百カ所を超える数で、しかも範囲も広く、査定官は大変と、同情している。

(五)、河川改修と関連について
 ④河川改修は、この度の災害を禍とせず福に転ずるため抜本的に改修する方針である。そのため地権者の協力の成否に左右するおそれがある。

(六)、河川改修と関連について
 ⑤河川改修は、この度の災害を禍とせず福に転ずるため抜本的に改修する方針である。そのため地権者の協力の成否に左右するおそれがある。

土地改良区事業担当者会議
 ・災害復旧の実務について
 9月12日 土地改良区以外(町の調査設計委託)
 9月13日 農業共済組合被災地評価
 9月17日 土地改良区理事長会議
 ・町の事業主体になることについての条件の再確認
 9月19日 臨時議会
 ・その後の状況説明
 ・農業用施設の事業主体になったことによる「土地改良課」設置の条例改正議決
 9月20日 土地改良課の設置並びに人事の発令
 ・課長事務取扱小原助役
 ・技術者の確保
 河川改修について
 ・河川改修については、黒沢川は既に測量が実施されている。関係者には説明が行なわれている。黒沢川が進めば、宿内川、永沢川と進められる。測量が終了し、予定線が決まり次第、用地の協力について地権者との協議がある。十月中旬頃からの予定。

9月25日 九月定例議会関係
 次の議決を経た。
 ・税の減免条例の制定
 ・復旧計画(資金計画)の提示(表Ⅳ)
 ・減免見込額は町民税四百九万二千円、国民健康保険税四千九百五十万円、固定資産税百三十

官房長、構造改善局長、建設部長、防災課長、同補佐(総括)、同(調整)、災害対策室長、同補佐(災害第一班)、同(災害第二班)、災害査定官(二人)、設計課長、首席農業土木専門官、農政部長、農地業務課長、同補佐(総括)同(自作農資金)。
 県選出国會議員。衆議院小沢一郎、椎名素夫、志賀節、沢藤礼次郎、玉沢徳一郎、鈴木善幸、工藤藤、小野信一。参議院、高橋清孝、小川仁一。
 10月14日 大蔵省、国土庁に陳情激甚指定について。
 早期着工について。
 大蔵省、主計局担当主計官、同公共事業第三係長。
 国土庁、官房長、長官官房審議官。

8月30日 県土木部長、河川課長、砂防課長、道路維持課長、土木事務所長、工務課長、農政部長、農畜課長、水沢振興局長、同農林部長、同土地改良課長、千貫石溜池他農業施設農地災害の現状を説明。
 総務部次長現地調査。
 8月31日 自民党県連災害対策本部(本部長椎名会長)代行伊藤県議、那須川、及川、佐藤県議現地調査。
 8月31日 佐々木副知事、総務部次長現地調査。
 9月1日 小沢衆議院議員夫人、

調査のための来町者

【6】



少しでも収穫をと稲穂を刈り取る (川目)

表II 降雨量調

観測点	時間別	降雨量	時間あたり平均雨量	時間
千貫石堤下	12時間	409.8%	34.15%	60
	24時間	511.8	21.3	60
後千貫石	12時間	401.5	33.45	62
	24時間	501.5	20.9	62
岳山	12時間	252.0	21.0	41
	24時間	471.0	19.6	62
若柳	12時間	90.0	7.5	34
	24時間	118.0	4.9	34

(一) 調査設計

調査設計
災害査定の実地調査
査定は公共土木については建設省の査定官、農地農業用施設については、農林水産省の査定官に大蔵省の監査官が立つ。

(二) 助成指令

助成指令
この度の被害額は膨大で国の助成なしでは復旧は不可能である。しかも査定は国のペースで進められるので、いくら焦っても、いたしかたがない。

(三) 助成対象

助成対象
査定が終わって、助成対象毎所に指令(または内示)がある。それが助成決定額である。それが助成決定額である。それが助成決定額である。それが助成決定額である。

(四) 工事発注

工事発注
指令(または内示)があつてはじめて工事の発注(入札)ができる。以上のスケジュールになるので今のところ査定完了待ちである。一口に査定といっても、公共土木で百十五ヶ所、農地農業用施設で三百九十一ヶ所、合計五百六ヶ所を処理しなければならず、物理的にも大変な作業である。それを処理、復旧を達成しなければ金ヶ崎町は元の姿に戻らない。

課題解決は議会と一体で

災害対策には次のような重要な課題がある。その解決には、執行部と議会が一体となって対応に腐心をしている。

普通災害 六十五町
激甚災害 九十町
従って、激甚指定を受けることが先決条件となるが、その基準からみた町の場合

●一つは公共土木施設においては、標準税収入額(十五億三千四百八十八万三千円)を超える査定額(被害額)
公共土木の被害額は、十九億九千三百五十万円であり、その限りでは大丈夫であるが、査定が厳しいと削減され標準税収入額を割る不安が残る。今までの例によると、二十位は削減されることである。
●二つは、農地農業用施設、林道施設においては、町の農業所

・災害の報告
・対策の説明(方針の説明、協議)
・応急工事費三千万円の補正議決
9月5日 川目自治会と協議会新井田公民館 自治会員約百人・町側松本助役・総務・建設・農林の各課長・広野農林課長補佐・災害復旧について協議(特に石持沢が話題になった。川目地区は、土地改良区域外であり、復旧を心配されていた。

9月6日 関係土地改良区(千貫石、永沢、駒ヶ岳、胆沢平野、和賀川)から農業用施設復旧事業については、事業主体に町がなつてほしい旨の陳情あり。
・町が事業主体になった場合、補助金の借入金分は町が償還することになり、受益者が有利になる。それは、町が償還する分については地方交付税で充当される。内部打ち合わせ(小原、松本両助役、総務、企画財政、福祉、農林、農業開発の各課長)
・復旧事業促進について
9月7日 関係機関協議(改良区、普及所、農業共済組合、農協、森林組合、農業委員会、農林課、農業開発課)
・災害対策について
・協力要請
9月9日 河川調査開始(県において)黒沢川から始める。
土地改良区理事長会議
・町が事業主体となることについて条件を付して承諾

9月22日 自治省、国土庁、小沢衆議院議員、椎名衆議院議員、志賀衆議院議員、玉沢衆議院議員、沢藤衆議院議員、高橋衆議院議員。
激甚災害指定、特別交付税並びに財政援助について陳情。
9月26日 県知事、佐々木副知事、消防防災課長に激甚災害指定について陳情。
県議会議員(胆沢、水沢地区)同様陳情。

9月29日 東北財務局長、理財部長、主計第一課長、同第二課長融資課長に陳情。
10月6日 東北地方建設局長、部長、課長に陳情。
激甚指定について。
早期着工について。

東北農政局長、同次長、農政部長、農政課長、同補佐、建設部長、同次長、防災課長、同補佐、災害査定官(二人)、設計課長。
10月13日 関係土地改良区理事長(千貫石、永沢、駒ヶ岳山麓、胆沢平野、和賀川、川目共同施行)と、東北農政局、農林水産省に陳情。
激甚指定について。
早期着工について。
優良資金の確保について。
東北農政局長、同次長、農政部長、農政課長、同補佐、建設部長、同次長、防災課長、同補佐、災害査定官(二人)、設計課長。
農林水産省陳情、大臣、政務次官(二人)、事務次官、審議官、

表 I 8月28・29日集中豪雨の被害 (9月21日現在) (単位:千円)

大雨量	備考	岩手県		金ヶ崎町内		金ヶ崎町管理施設等	
		被害項目	被害額	被害総額	被害額	被害総額	備考
0%	29日1時~2時2時間で100%	人的被害	死者0人 行方不明者0人 重傷者0人 軽傷者1人	0人 0人 0人 1人	0人 0人 0人 1人		
0	28日24時~29日1時2時間で100%	住家等被害 (100%)	151,657	116,611	116,611	床上26・床下108世帯、非住家42棟	
0		庁舎等被害 (100%)	22,631	17,631	1,502	有線電話	
0		社会福祉施設被害 (100%)	11,000	0	0		
0	29日18時~19時2時間で100%	医療衛生施設被害 (100%)	96,824	70,200	70,200	水道5ヵ所、火葬場	
0		商工関係被害 (100%)	58,580	0	0		
0		観光施設被害 (100%)	34,578	0	0		
0	28日24時~29日1時2時間で54%	高圧ガス、火薬類施設及び鉱山関係被害	0	0	0		
0		消防施設被害	0	0	0		
0		農業施設被害 (100%)	7,189	60	0		
0		農作物等被害 (100%)	1,145,609	285,510	249,840		
0		家畜等関係被害 (100%)	1,070	500	500		
0		農地農業用施設被害 (100%)	7,043,000	3,355,000	3,072,000		
0		林業関係被害 (国有林90% 国有林以外100%)	6,651,808	822,492	285,000		
0		水産関係被害 (100%)	7,715	1,500	1,500		
0		漁港施設被害	0	0	0		
0		建設省所管土木施設被害 (100%)	16,008,800	6,952,800	1,993,500		
0		運輸省所管土木施設被害	0	0	0		
0		都市施設被害 (100%)	7,750	0	0		
0		学校被害 (100%)	28,520	1,070	1,070	第一小学校校庭	
0		文化財被害 (100%)	7,000	0	0		
0		社会教育・体育施設被害 (100%)	11,020	0	0		
0		船舶被害	0	0	0		
0		通関関係被害 (100%)	7,331	0	0		
0		電力関係被害 (100%)	30,900	0	0		
0		工業用水道被害	0	0	0		
0		飲道関係被害 (100%)	673,875	0	0		
		計	32,006,857	11,623,374	5,791,723		

今後のスケジュール

今後の災害復旧のスケジュール

は次のようになる。

時間当たり最大雨量と降雨時間は千貫石堤下で六十^リが二時間、後千貫石で六十^リが二時間で、とにかく降るも降ったり一^リの半分の五十^リも降ったのである。河川、水路は呑み切れず氾濫し、豪雨の中心であった金ヶ崎町が一番の被害地となった。

観測所	24時間雨量	時間当たり平均雨量	時間当たり最大雨量	観測年月日
水沢観測センター (旧水沢緯度観測所)	274.1	11.4	57.3	昭和23年9月16日 (アイオン台風)
盛岡地方気象台 (住田町)	334.0	-	-	昭和23年9月16日 (アイオン台風)

調べたが、問題ならなかった。この降雨量は、岩巻の観測史上最高の記録であつて、おき今までの一日の最高は次のごとしである。

豪雨は意地悪く金ヶ崎町と隣の胆沢町と北上市相去の一部のみの局地的集中豪雨であつた。十二時間の時間当たり平均雨量は千貫石堤下で三十四・一五^リ、後千貫石で三十三・四五^リ、二十四時間の時間当たり平均雨量は千貫石堤下で二十一・三三^リ、後千貫石で二十^リ・九^リ。

- 小原助役
 - ・ 公共土木関係は、松本助役
 - ・ 小原助役は、担当のない課に
 - ・ 対し、必要に応じて応援および業務を指示する。
- (10) 激甚災害の指定を得ることに努める。(小原助役、総務課)
- (11) かくれている被災地の調査(総務課)
- ・ 出来得る限り災害事業にの
- ・ せる。
- (12) 災害復旧に要する資金の確保。(企画財政課)
- (13) 九月定例議会に對し、災害補正の検討(各課)
- (14) 九月三日臨時議会招集(総務課)
- ・ 災害の報告
- ・ 応急対策の説明
- ・ 応急工事費三千円の子算
- ・ 補正
- (15) 救済対策
 - ・ 浸水家屋調査とその対策(福祉課)
 - ・ 危険家屋の移転を奨める。
 - ・ 移転先のない者には、町
 - ・ が取得して貸与する。
 - ・ 貸与地は、賃借料を徴取
 - ・ する。(賃借料は銀行の
 - ・ 金利程度)
 - ・ 取得できる時期に譲渡す
 - ・ る。(原価程度)

- 9月3日 臨時議会
- 統計情報事務所水沢出張所長へ陳情。
- 9月11日 椎名衆議院議員来町の
- ・ 際陳情。
- 9月12日 岩手県農業共済連合会
- ・ へ陳情。
- 9月13日 災害現場視察の際陳情
- ・ 参議院災害対策特別委員会小川
- ・ 委員長、参議院災害対策特別委員
- ・ 会高橋委員、国土庁防災局防
- ・ 務課長木挽孝紀、農林水産省構
- ・ 造改善局建設部防災課災害対策室長
- ・ 山口保身、林野庁指導部治山課
- ・ 森林土木専門官梅坂末雄、建設省河
- ・ 川局防災課総括災害査定室下野均
- ・ 参議院建設委員会主任調査員佐藤
- ・ 勝、参議院参事加藤賢一、東北農
- ・ 政局次長坂柳迪夫、東北農政局建
- ・ 設部防災課長井上明夫。
- ・ 総務部消防防災課長、農政部柳
- ・ 田次長、農地建設課長、農村振興
- ・ 課佐藤首席専門技術員、林業水産
- ・ 部森林土木課長。
- 9月14日 知事に災害復旧につ
- ・ て陳情。
- ・ 農政部長に専門職員派遣につ
- ・ いて要請
- 9月17日 県庁農政部、土木部に
- ・ 対し陳情。
- ・ 土木部高橋次長に技術職員の
- ・ 応援について要請。
- ・ 農政部柳田次長に技術職員派
- ・ 遣を要請。
- 9月20日 盛岡財務事務所所長に
- ・ 陳情。
- ・ 激甚指定について。
- ・ 早期着工について。



八月二十八日、二十九日の集中豪雨のツメ跡は今でも町内各地で見うけられ、当時の荒れ狂った河川のはん濫の様相などがうかがわれます。町では復旧作業を優先に進めており、現在は国で災害査定などが行われています。膨大な被害を受けた町の執行機関の最高責任者山路勝男町長は、今までの経過や決意を町民の皆さんに訴え、理解と協力を求めるために自から原稿を書きましたので、今月号に掲載しました。

濁流に呑まれた金ヶ崎

停滞する低気圧の影響で強い雷雲が発生し、八月二十八日の夜から二十九日にかけて未曾有の集中豪雨となり、二十九日は金ヶ崎町にとって正に魔の夜明けであった。強い雨脚にけむり明け行く眼前に、営々として創りあげた収穫を待つ田園は、荒れ狂う濁流に無惨にも呑み込まれていた。なす術もなく、いらだちと、もどかしさの無念から、心の底から強い憤りを覚えつつも呆然とした。

町行政の執行責任者として何から手をかけたやら、全くわからなく思案に惑うのみであった。水が引いた後の有様は、見るも

悲惨に荒廃した姿に変わり果てた。調査によれば、その被害の概要は表Ⅰの通りで、有史以来かつてない甚大なものであった。

堤防・道路・橋・頭首工・水路

降るも降ったり五十センチ

公共施設の壊滅的な破壊に「町の公共施設は脆過ぎる。」と疑問を感じ、降雨量を調査したところ町内での雨量観測は、幸いにも千貫石堤下(千貫石土地改良区管理)と、駒ヶ岳に近い後千貫石(町農林課管理)と、県立農業短期大学校の三カ所で計っていたが、農業

水道管等々の公共施設は流失し、交通は寸断、水道は断水、日常生活は勿論、生産活動にも大きな支障をきたしたことは誠に残念で、特にも収穫期を目前に今年の収入源である、丹精の稲を失なった痛手、無念さは想像に余り有り、同情を申し憐れを禁じ得ない。

短期大学の施設は旧式のもので満杯となり観測不能であったが、他の二カ所は測定できた。

その記録は表Ⅱのとおりであった。参考までに岳山(胆沢町北側)と若柳(供養塚付近)の二カ所も調べてみた。更に水沢観測センター(旧緯度観測所)と、湯田ダムも

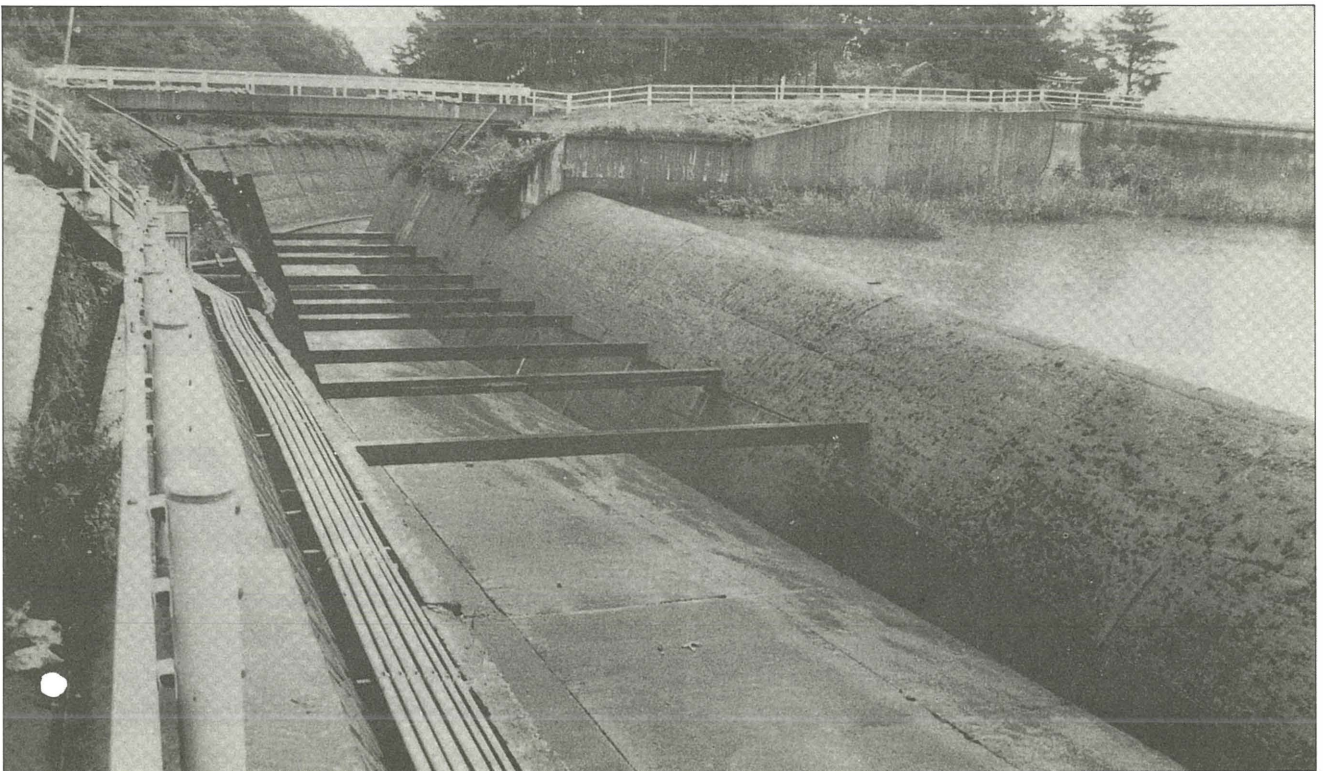
復旧は

可欠の要件である。

- 一、災害復旧について
 - (1) 全般的に復旧のための調査設計は、岩手県土木技術振興協会に一括委託し、早急に復旧額を把握する。(建設課)
 - (2) 河川については(建設課)
 - ① 全般的に水の流れやすいように拡幅改良をする。
 - ② 出来得る限り、災害対策事業で恒久的に改良する。
 - ③ 特に主なる河川についてはI宿内川は、改修計画がたっているので、未計画(上流部)地区
 - II 黒沢川は、稲沢の赤坂付近から下流部
 - III 永沢川は、キッツ川の合流点より上流部
 - (3) その他の局所的な被害部については、局部改良(災害復旧)による。
 - (4) 調査設計を急ぎ、査定に間に合わせる。
 - (5) 応急を要する箇所については、建設業協会の協力を得て一括委託をし、復旧費は出来高払いをする。
 - (6) 川原田橋については、立替払いで早急に完成を急ぐ。
 - (7) 農地農業用施設については(農林課)
 - (8) 担当助役
 - ・ 農地、農業、一般団体は、

したいとのことであった。

- 9月3日 参議院議員小川仁一氏 災害現場視察の際陳情
- 9月8日 県庁に陳情
 - 佐々木副知事・土木部長・土木部次長・河川課長・砂防課長
- 河川調査の協力要請を受ける。
- 河川改修計画を早く提示してほしいとのことであるが、調査し、計画をたて関係機関の調整を得るためには、十月一杯かかると。この際、町管理の河川についても災害で改修した方が有利と思われるものは出してほしい。
- 農政部長、農地開発課長、農畜課長。
 - 千貫石溜池は県で行う、さしあたり応急工事は実施する。農業施設復旧事業のため職員派遣も考えている。
 - 土地改良区より農業土木災害の事業主体になってほしいと要請されているが、というところ、農業施設災害の復旧は、町が主体となつた方が有利
 - 地方振興課長
 - 激甚災害の指定並びに特別交付税については、六日間に副知事関係課長で陳情している。
 - 明日部長が、視察に行くので同行する。
 - 消防防災課長
 - 激甚災害指定については、国に陳情しているが、町においても陳情した方がよい。



余水吐けの損傷で応急の補強工事が行われた千貫石堤

1万6千町民の手で

集中豪雨災害の復旧に賭ける山路町長が自から原稿を書く

対応対策の記録

特記事項

8月29日 庁内連絡会議（対策の指示）

- ・ 通学道路、生活道路の応急工事と確保
- ・ 建設業協会の全面的な協力を得る。
- ・ 水道の復旧工事の促進
- ・ 工事費は後で精算払いとする。
- ・ 学校は休校とする。（通学の安全が確認できるまで）
- ・ 県庁に災害の実態報告及び復旧について陳情
- ・ 各課総力をあげて災害の実態調査をし、把握し取りまとめ、復旧工事の調査設計の委託（建設課）

9月1日 打ち合わせ

- ・ 三日臨時議会招集について（災害の報告、対策の説明、応急工事費三千万円補正）
- 9月2日 庁内連絡会議
- ・ 災害対策の方針明示
- ・ 災害対策については、当面この方針によるものとする。
- 新たに発生した事態については、その都度指示をする。
- 当面災害の実態把握に努め、それに基づき復旧の促進をはかるものとする。
- これらの達成が、長期にわたるものと思考される。よって上部機関・関係団体・被害者・町民・特に協議会の理解協力が不

陳情事項

9月1日 県庁に要請

土木部長に災害河川、宿内川、黒沢川、永沢川、キッツ川について全面技術改修の要請。

土木事務所長にも同様の要請。

県土木部長は、問題は地権者から用地の協力が得られるならば全面改修は殆んど国費でやる。この際災害復旧で工事を進める方が有利である。地権者が協力するならば県としても全力をあげて取りくむことにする。

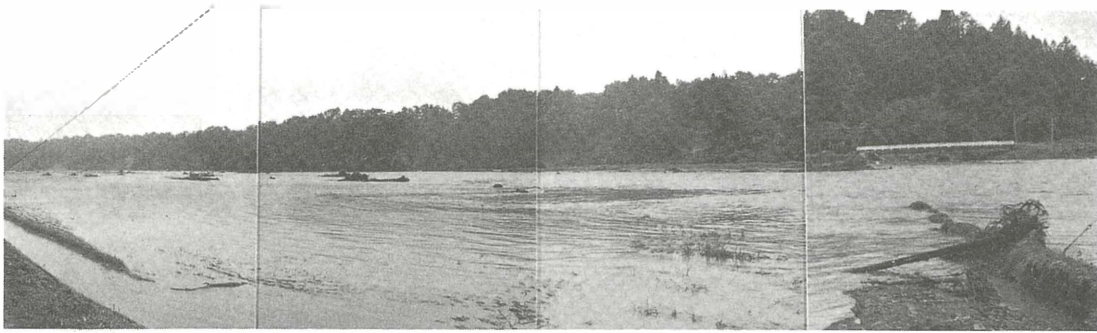
県農地建設課長に千貫石溜池余水吐の改修について要請。

農地建設課長は、千貫石溜池の改修計画は進められているので、この計画でやれるか、災害復旧でやるか勘案して有利な方法を探りたいとのこと、それについては県に一任。さしあたり、余水吐の擁壁の応急工事は検討したい。よって振興局土地改良課と協議を進めるようにとの指導あり。

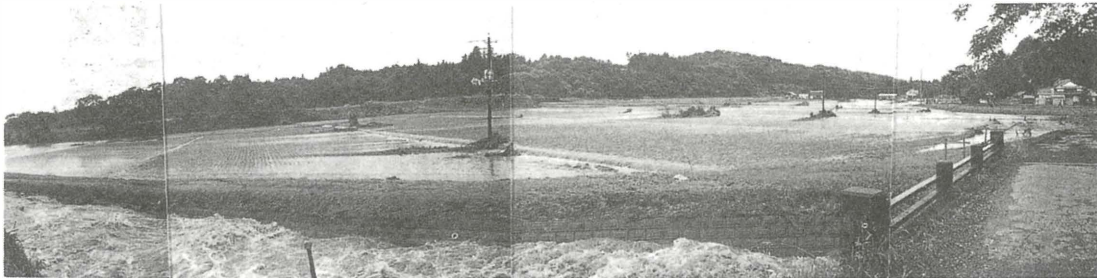
9月2日 水沢振興局に陳情。

局長・農林部長・土地改良課長に、千貫石溜池の余水吐擁壁の応急工事と農業施設の復旧について陳情。

農林部長は、このことについては、県と協議中であり、協議が整った時点であらためて指導



黒沢川のはん濫で参道は流され農地は濁流に飲まれる（西根字坂水）



実のりを前にした稲が倒伏し収穫の見込みがない（西根字大石）



決壊が心配された千貫石堤

町内の被害総額

区 分	被 害 総 額	うち金ヶ崎町管理分
		住宅等 庁舎等 医療衛生施設 農林水産関係 公共土木施設 学校関係 合 計

町内外から見舞品や義援金が寄せられています

被災への見舞品や義援金が、町内外から寄せられています。八月三十日から九月二十日までに次の皆さんからいただきました。ありがとうございます。

日本水道：清酒二升 小田島薬局：チオピタドリンク百五十本 衆議院議員小沢一郎：チオピタドリンク三十本 衆議院議員沢藤礼二郎：一万円 花王石けん：缶ジュース三十本・化粧石けん五十個 固形石けん三十二個・袋入石けん百袋 県消防協会：清酒二升 塩野義：清酒二升 町上自治会：三万円 村田柴太：一万円 改断講中：三万円 改断日曜会：一万円 板宮清治：一万円 ライオンクラブ332-B地区国際協会：三万二千元 高橋武三：一万円 スーパー名室：百万円 水沢市長：二十万円 水沢市議会：十万円 野村証券(株)盛岡支店：一万円 傷い軍人胆沢水沢支部長：一万円 平間正：一万円 石母田正治：一万円 横道上自治会：五万円 友愛園職員一同：二万円 友愛園入居者一同：一万七千元 衛生管理センター：三万円 斎藤歯科医院：五万円 北方鹿踊：一万円 石

母田ハツミ：三千元 懸田弘志：三千元 水沢地方農業共済職員労働組合：三万円 松本歯科医院：三万円 日本赤十字岩手支部：八万八千五百円 町課長等会：二十万円 岩手銀行職員一同：二万円 山路絹子：三万円 社会福祉協議会役員一同：二万六千元 佐々木万久：一万円 祐子と弥生：五万円 佐藤健：一万円 小沢清治：五万円 (株)北杜地質センター：ビール券十二本分 横山吉春(水沢市)：一万円 町身体障害者福祉協会：一万円 細目家畜医院：二万円 有住医院：五万円 及川医院：五万円 及川絵美子：七千九百円 高野医院：五万円 大谷地婦人会：三千元 瘤木和光会：二万円 横道下自治会：三万四千元 水沢市特別職管理職職員会：十四万円 水沢市姉妹第三区夏まつり実行委員会：一万五千元 水沢市姉妹第三区堀切・王鳥・殿野起子供会：六千元

災害写真の提供を

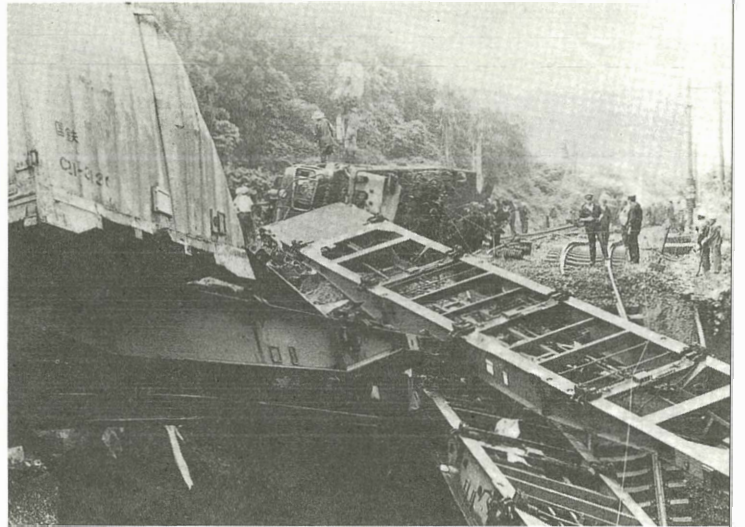
当時の歴史に残る今回の豪雨災害を、町では記録として残すために写真を募集しています。提供できる写真、またはネガを貸していただける人は役場企画財政課広報係(☎42-2111)へ電話でご連絡ください。こちらからお伺いします。



農地は流され住宅は床上浸水 (西根字李田)



宿内川で乗用車が流され4時間半後に運転手を救出



赤門幼稚園北側の増水は線路下の土砂を削り列車が転覆 (六原駅北側)

浸水世帯の状況

行政	区	床下	床上
町	上	5	
谷	上		1
谷	下	1	
藤	巻	1	2
御	免	3	1
川	目	10	8
和	光	2	
高	野	1	
千	石	2	1
長	田	4	
遠	巾	1	
上	沢	1	
下	沢	15	
瘤	木	21	6
細	野	6	6
野	崎	4	
上	沢	6	1
下	第一	6	
二	町	1	
上	町	5	
二	持	7	
穴	森	2	
二	森	2	
金	断	2	
改		1	
		108	26

中小河川は急激に増水したため至る所では氾濫や堤防の決壊を来しました。このため、橋や町水道の配管が流されたり、道路が欠けたり、住宅や農地が浸水するなどで、国県・町管理の被害を合わせると、町内分だけで百十六億二千三百三十七万円もの巨額な被害額になりました。

町管理分の公共土木施設の被害は、橋りょうが二十七カ所で三億三千九百四十万円、道路が五十四カ所で三億八百三十万円、河川が三十四カ所で十三億四千五百八十万円、合計十九億九千三百五十万円にのぼりました。

また、農林関係の被害は、農地や水路、林道などを合わせると三十六億八百八十四万円になりました。

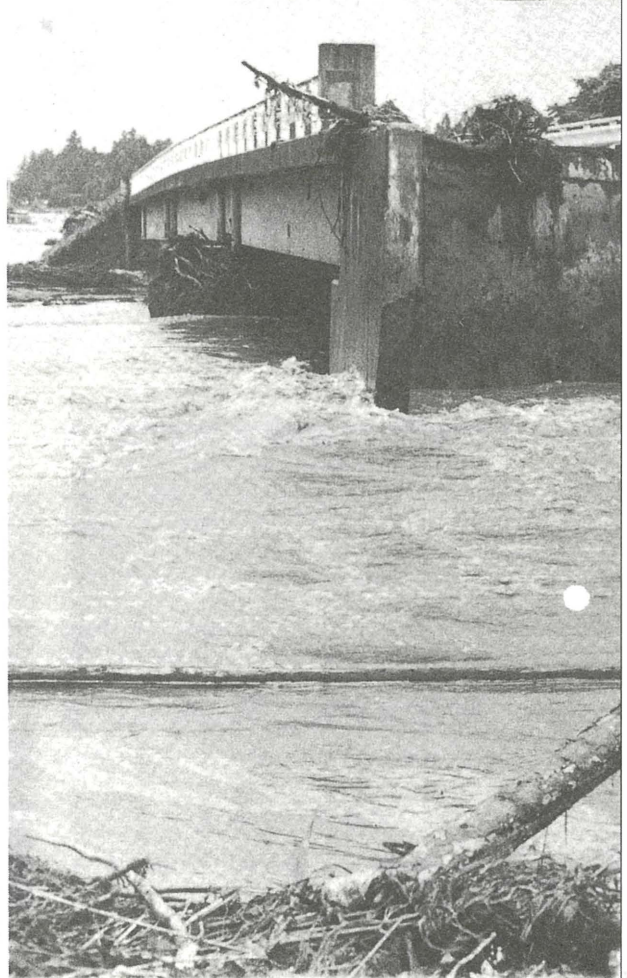
住宅関係の浸水も多く、床上まで浸水したのが二十六世帯、床下まで浸水したのが百八世帯もありました。

このほか、有線放送電話、町水道などにも被害があり、これらを合わせた被害の総額は、五十七億九千七百七十二万円にものぼり、町の一般会計予算の一年分をはるかに上まわる巨額なものとなりました。

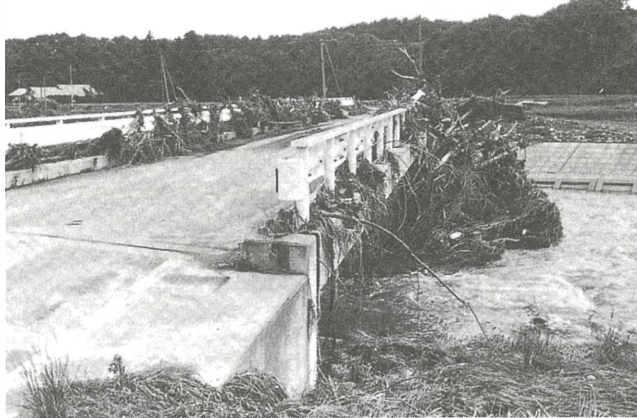
被害は116億2千万円



国道4号も増水で一時通行止 (三ヶ尻字瘤木)



橋のたもとが流され通行止めになった坂水橋 (永沢字広本)



流木で欄干が損傷した稲沢橋 (西根字稲沢)

五百ミリ以上の降雨

短かい夏も終わりに近づき、ぐずついた天気は農作物の作柄が心配されていた矢先に、「まさか金ヶ崎で」と思いもよらぬ水害が、八月二十八日、二十九日の両日を中心に全町が見舞われました。

数日前まで雨が降ったりやんだりのあとの八月二十八日は、停滞する低気圧の影響で湿った暖かい気流に覆われ、夕刻ごろから強い雷鳴を伴った局地的な豪雨が夜半過ぎまで続きました。

このため千貫石堤付近では、二十八日午後八時から翌日の午後八時までの二十四時間に五百十一ミリ

の未ぞうの降雨量になりました。特

にも二十八日午後九時から翌日の午前九時までの十二時間で四百九ミリの降雨量が記録されています。

北上川に架かる金ヶ崎橋が流された昭和二十三年の「アイオン台風」のときは、国立天文台地球回転研究系水沢観測センター(旧水沢緯度観測所)での二十四時間降雨量は二百七十四ミリ、盛岡地方気象台が住田町で測定した雨量は三百三十四ミリですから、今回の豪雨は想像を絶する雨が駒ヶ岳山ろく付近に降り続いたことになりました。

千百世帯が避難準備

二十九日になっても雨は続き、千貫石堤の堤防の北側にある揚水吐けからは、最っとも高いときで七十二センチの厚さでオーバーフローし

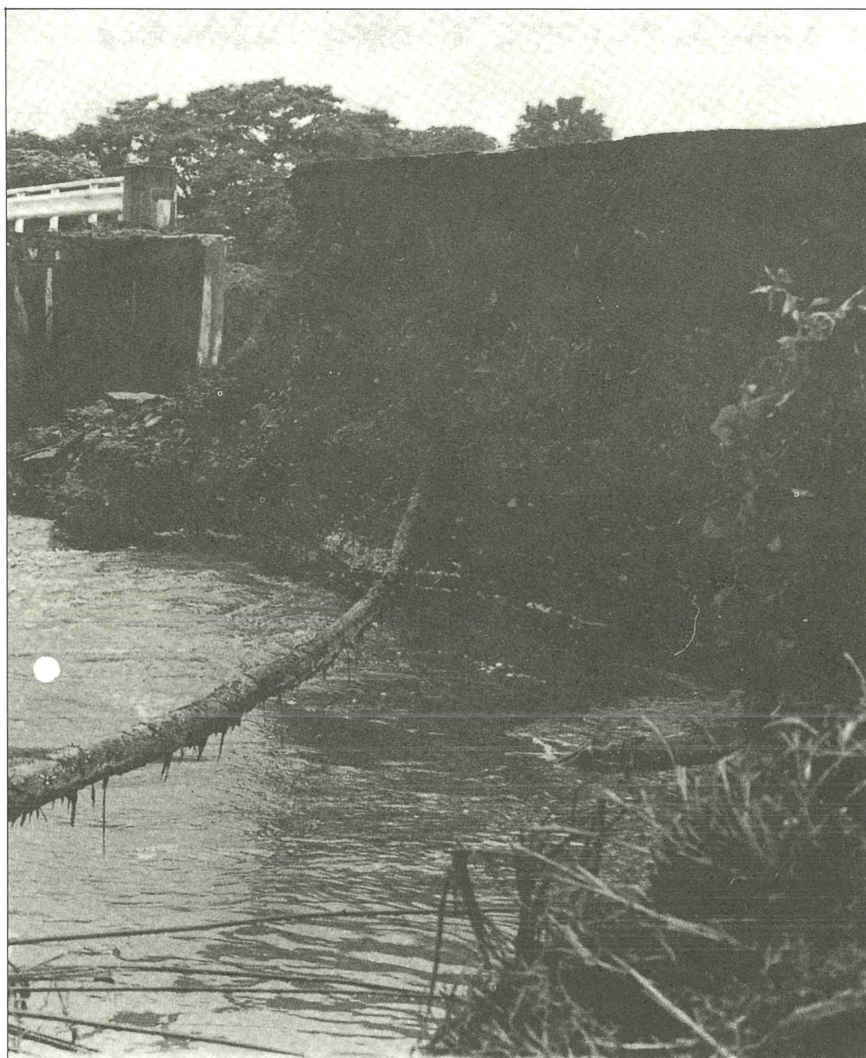
駐車場側のコンクリートの壁は、裏側に雨が浸透したため崩れて水路を埋める恐れが出るなど、対策本部や地域は緊迫した空気につつまれました。

もし揚水吐けが埋まったときは堤の余水の流れ場がなくなり、さらに水が溜まり、いよいよ堤防を

越えて流れることが予想され、決壊の可能性が出るということです。

このため、夕方に千貫石部落から南方、北方など約千百世帯へ、行政区長を通じて避難準備の通知が出され、早々に工業団地の富士通や塩野義の体育館に避難した世帯もありました。

しかし、その後雨も弱まり、その危険もなくなり、夜半前にはそれぞれの家に戻りました。



全町が震えた豪雨

町内各地で大被害

集中豪雨は町内全域にわたって災害をもた

らしました。中小河川の決壊やはん濫をはじ

め、住宅、道路、農地などに受けた被害は今

までに記録されたことのないほど甚大なもの

でした。農業用水の水がめ「千貫石堤」の揚

水吐けの損壊に備えて、約千百世帯への避難

準備の呼びかけが行われるなど、今回の豪雨

は全町を震えあがらせるものでした。

XII 広報紙が伝えた集中豪雨災害




昭和63年8月28日、29日の両日にわたって、金ヶ崎町を襲った集中豪雨の傷跡を「広報かねがさき」では、次のとおり報じました。

いまよりも よい人間になりたい 豊かな生活をしたい 住みよい町にしたい —生涯教育の町宣言—

広報

かねがさき

昭和63年
9月
第411号



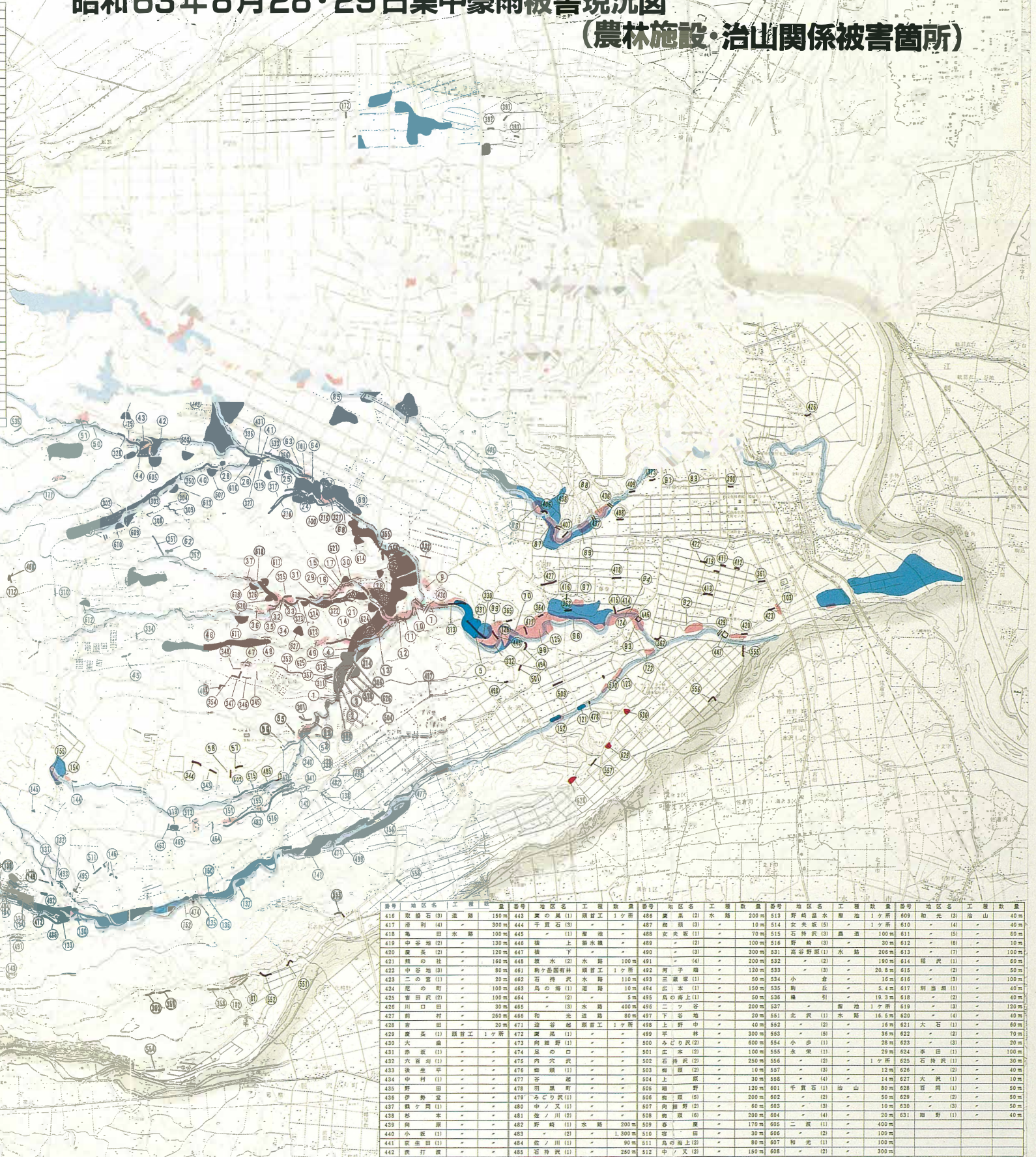
集中豪雨で町内全域に大被害

9月13日に参議院災害対策特別委員会（小川仁一委員長・高橋清孝委員・国土庁・農林水産省・建設省の職員）の調査団が現地視察に来町

金ヶ崎町全図

昭和63年8月28・29日集中豪雨被害現況図 (農林施設・治山関係被害箇所)

番号	地区名	工事種別	工事数量	地区名	工事種別	工事数量	地区名	工事種別	工事数量	地区名	工事種別	工事数量
1	石持沢(1)	田	0.24	55	石持沢(8)	田	0.2	130	三連堂(2)	田	0.35	316
2	石持沢(2)	田	0.25	56	野崎(1)	田	0.1	131	野崎(2)	田	0.2	317
3	石持沢(3)	田	0.75	57	野崎(2)	田	0.8	132	野崎(3)	田	0.2	318
4	石持沢(4)	田	0.14	58	野崎(3)	田	0.2	133	野崎(4)	田	1.2	319
5	石持沢(5)	田	0.3	59	野崎(4)	田	0.4	134	野崎(5)	田	0.75	320
6	石持沢(6)	田	1.4	60	野崎(5)	田	0.6	135	野崎(6)	田	0.2	321
7	石持沢(7)	田	0.1	61	野崎(6)	田	0.1	136	野崎(7)	田	0.1	322
8	石持沢(8)	田	0.5	62	野崎(7)	田	0.2	137	野崎(8)	田	0.3	323
9	石持沢(9)	田	0.7	63	野崎(8)	田	0.2	138	野崎(9)	田	0.4	324
10	石持沢(10)	田	1.6	64	野崎(9)	田	0.1	139	野崎(10)	田	0.4	325
11	石持沢(11)	田	0.4	65	野崎(10)	田	0.2	140	野崎(11)	田	0.5	326
12	石持沢(12)	田	2.0	66	野崎(11)	田	0.3	141	野崎(12)	田	0.7	327
13	石持沢(13)	田	0.2	67	野崎(12)	田	0.2	142	野崎(13)	田	0.35	328
14	石持沢(14)	田	0.3	68	野崎(13)	田	0.1	143	野崎(14)	田	0.2	329
15	石持沢(15)	田	0.2	69	野崎(14)	田	0.1	144	野崎(15)	田	0.1	330
16	石持沢(16)	田	1.0	70	野崎(15)	田	0.1	145	野崎(16)	田	0.2	331
17	石持沢(17)	田	0.1	71	野崎(16)	田	0.1	146	野崎(17)	田	0.1	332
18	石持沢(18)	田	0.2	72	野崎(17)	田	0.1	147	野崎(18)	田	0.2	333
19	石持沢(19)	田	0.1	73	野崎(18)	田	0.1	148	野崎(19)	田	1.3	334
20	石持沢(20)	田	0.1	74	野崎(19)	田	0.1	149	野崎(20)	田	0.35	335
21	石持沢(21)	田	0.1	75	野崎(20)	田	0.1	150	野崎(21)	田	0.2	336
22	石持沢(22)	田	0.1	76	野崎(21)	田	0.1	151	野崎(22)	田	2.3	337
23	石持沢(23)	田	0.1	77	野崎(22)	田	0.1	152	野崎(23)	田	0.7	338
24	石持沢(24)	田	0.1	78	野崎(23)	田	0.2	153	野崎(24)	田	0.2	339
25	石持沢(25)	田	0.1	79	野崎(24)	田	0.1	154	野崎(25)	田	0.1	340
26	石持沢(26)	田	0.1	80	野崎(25)	田	0.1	155	野崎(26)	田	0.1	341
27	石持沢(27)	田	0.1	81	野崎(26)	田	0.1	156	野崎(27)	田	0.1	342
28	石持沢(28)	田	0.1	82	野崎(27)	田	0.1	157	野崎(28)	田	0.1	343
29	石持沢(29)	田	0.1	83	野崎(28)	田	0.1	158	野崎(29)	田	0.1	344
30	石持沢(30)	田	0.1	84	野崎(29)	田	0.1	159	野崎(30)	田	0.1	345
31	石持沢(31)	田	0.1	85	野崎(30)	田	0.1	160	野崎(31)	田	0.1	346
32	石持沢(32)	田	0.1	86	野崎(31)	田	0.1	161	野崎(32)	田	0.1	347
33	石持沢(33)	田	0.1	87	野崎(32)	田	0.1	162	野崎(33)	田	0.1	348
34	石持沢(34)	田	0.1	88	野崎(33)	田	0.1	163	野崎(34)	田	0.1	349
35	石持沢(35)	田	0.1	89	野崎(34)	田	0.1	164	野崎(35)	田	0.1	350
36	石持沢(36)	田	0.1	90	野崎(35)	田	0.1	165	野崎(36)	田	0.1	351
37	石持沢(37)	田	0.1	91	野崎(36)	田	0.1	166	野崎(37)	田	0.1	352
38	石持沢(38)	田	0.1	92	野崎(37)	田	0.1	167	野崎(38)	田	0.1	353
39	石持沢(39)	田	0.1	93	野崎(38)	田	0.1	168	野崎(39)	田	0.1	354
40	石持沢(40)	田	0.1	94	野崎(39)	田	0.1	169	野崎(40)	田	0.1	355
41	石持沢(41)	田	0.1	95	野崎(40)	田	0.1	170	野崎(41)	田	0.1	356
42	石持沢(42)	田	0.1	96	野崎(41)	田	0.1	171	野崎(42)	田	0.1	357
43	石持沢(43)	田	0.1	97	野崎(42)	田	0.1	172	野崎(43)	田	0.1	358
44	石持沢(44)	田	0.1	98	野崎(43)	田	0.1	173	野崎(44)	田	0.1	359
45	石持沢(45)	田	0.1	99	野崎(44)	田	0.1	174	野崎(45)	田	0.1	360
46	石持沢(46)	田	0.1	100	野崎(45)	田	0.1	175	野崎(46)	田	0.1	361
47	石持沢(47)	田	0.1	101	野崎(46)	田	0.1	176	野崎(47)	田	0.1	362
48	石持沢(48)	田	0.1	102	野崎(47)	田	0.1	177	野崎(48)	田	0.1	363
49	石持沢(49)	田	0.1	103	野崎(48)	田	0.1	178	野崎(49)	田	0.1	364
50	石持沢(50)	田	0.1	104	野崎(49)	田	0.1	179	野崎(50)	田	0.1	365
51	石持沢(51)	田	0.1	105	野崎(50)	田	0.1	180	野崎(51)	田	0.1	366
52	石持沢(52)	田	0.1	106	野崎(51)	田	0.1	181	野崎(52)	田	0.1	367
53	石持沢(53)	田	0.1	107	野崎(52)	田	0.1	182	野崎(53)	田	0.1	368
54	石持沢(54)	田	0.1	108	野崎(53)	田	0.1	183	野崎(54)	田	0.1	369



凡例

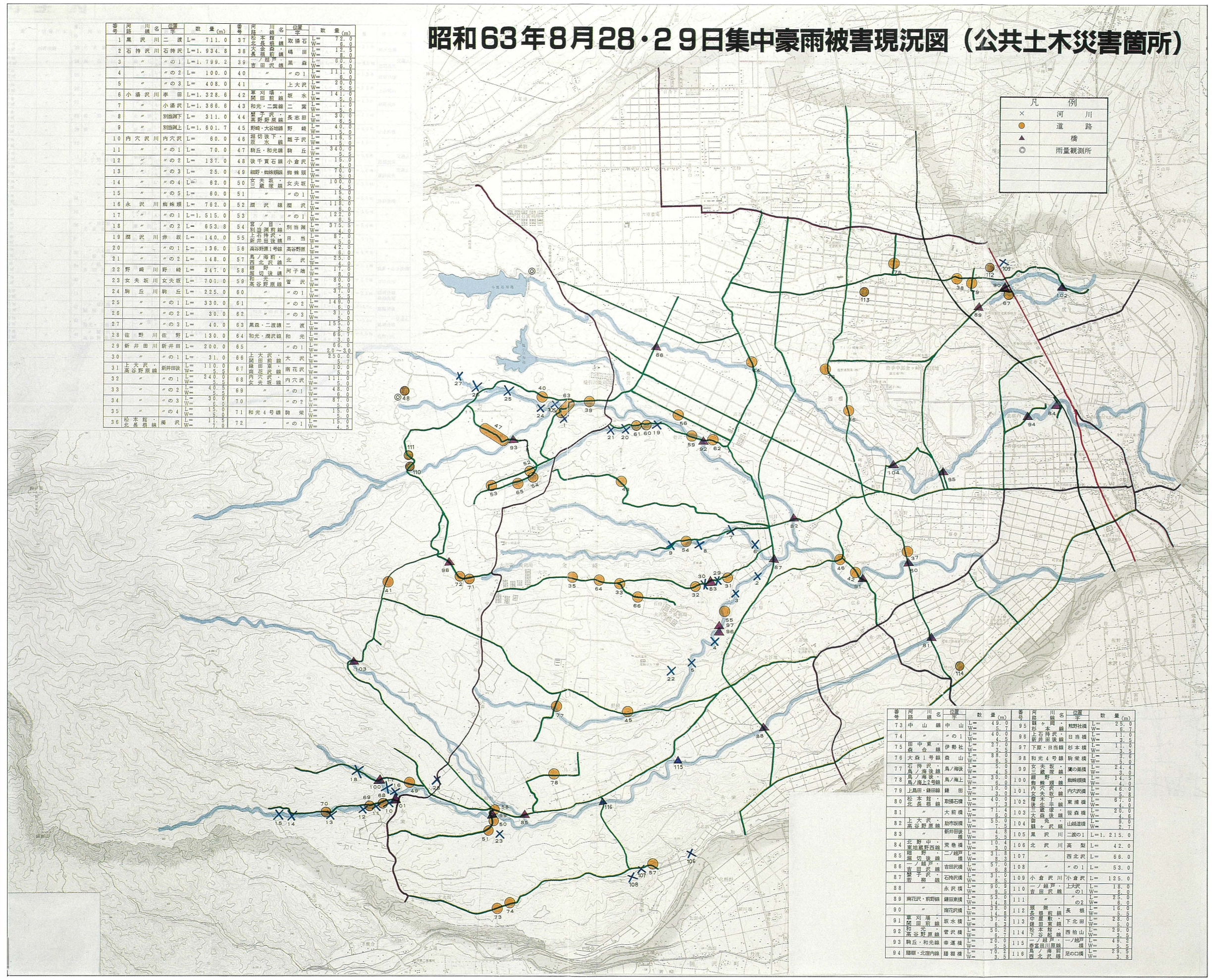
- 農地(土砂堆積)
- 農地(流失)
- 農地(法面崩壊)
- 施設(農道)
- 施設(水路)
- 施設(鎮首工)
- 治山(山林崩壊)
- ため池
- 揚水機
- 登水

番号	地区名	工事種別	工事数量	地区名	工事種別	工事数量	地区名	工事種別	工事数量	地区名	工事種別	工事数量
416	政石(1)	田	180	442	栗の森(1)	田	10	486	栗の森(1)	水路	200	513
417	政石(2)	田	300	443	栗の森(2)	田	10	487	栗の森(2)	水路	10	514
418	政石(3)	田	100	444	栗の森(3)	田	10	488	栗の森(3)	水路	10	515
419	政石(4)	田	100	445	栗の森(4)	田	10	489	栗の森(4)	水路	10	516
420	政石(5)	田	120	446	栗の森(5)	田	10	490	栗の森(5)	水路	10	517
421	政石(6)	田	180	447	栗の森(6)	田	10	491	栗の森(6)	水路	10	518
422	政石(7)	田	60	448	栗の森(7)	田	10	492	栗の森(7)	水路	10	519
423	政石(8)	田	30	449	栗の森(8)	田	10	493	栗の森(8)	水路	10	520
424	政石(9)	田	100	450	栗の森(9)	田	10	494	栗の森(9)	水路	10	521
425	政石(10)	田	100	451	栗の森(10)	田	10	495	栗の森(10)	水路	10	522
426	政石(11)	田	30	452	栗の森(11)	田	10	496	栗の森(11)	水路	10	523
427	政石(12)	田	260	453	栗の森(12)	田	10	497	栗の森(12)	水路	10	524
428	政石(13)	田	30	454	栗の森(13)	田	10	498	栗の森(13)	水路	10	525
429	政石(14)	田	472	455	栗の森(14)	田	10	499	栗の森(14)	水路	10	526
430	政石(15)	田	473	456	栗の森(15)	田	10	500	栗の森(15)	水路	10	527
431	政石(16)	田	474	457	栗の森(16)	田	10	501	栗の森(16)	水路	10	528
432	政石(17)	田	475	458	栗の森(17)	田	10	502	栗の森(17)	水路	10	529
433	政石(18)	田	476	459	栗の森(18)	田	10	503	栗の森(18)	水路	10	530
434	政石(19)	田	477	460	栗の森(19)	田	10	504	栗の森(19)	水路	10	531
435	政石(20)	田	478	461	栗の森(20)	田	10	505	栗の森(20)	水路	10	532
436	政石(21)	田	479	462	栗の森(21)	田	10	506	栗の森(21)	水路	10	533
437	政石(22)	田	480	463	栗の森(22)	田	10	507	栗の森(22)	水路	10	534
438	政石(23)	田	481	464	栗の森(23)	田	10	508	栗の森(23)	水路	10	535
439	政石(24)	田	482	465	栗の森(24)	田	10	509	栗の森(24)	水路	10	536
440	政石(25)	田	483	466	栗の森(25)	田	10	510	栗の森(25)	水路	10	537
441	政石(26)	田	484	467	栗の森(26)	田	10	511	栗の森(26)	水路	10	538
442	政石(27)	田	485	468	栗の森(27)	田	10	512	栗の森(27)	水路	10	539

昭和63年8月28・29日集中豪雨被害現況図（公共土木災害箇所）

番号	河川名	位置	数量	単位	番号	河川名	位置	数量	単位
1	黒沢川	二渡	L=711.0	37	1	松本川	取掃石	L=720.0	0
2	石神沢川	石神沢	L=1,934.8	38	2	松本川	黒田	L=720.0	0
3	"	"の1	L=1,799.2	39	3	松本川	黒田	L=720.0	0
4	"	"の2	L=100.0	40	4	"	"の1	L=111.0	0
5	"	"の3	L=408.0	41	5	"	上大沢	L=200.0	0
6	小島沢川	幸田	L=1,328.6	42	6	黒川	飯水	L=141.0	0
7	"	小澤	L=1,366.6	43	7	和光	二渡	L=111.0	0
8	"	別当河下	L=311.0	44	8	黒川	長志田	L=380.0	0
9	"	別当河上	L=1,601.7	45	9	野崎	野崎	L=400.0	0
10	内穴沢川	内穴沢	L=60.0	46	10	野崎	大谷	L=111.0	0
11	"	"の1	L=70.0	47	11	野崎	大谷	L=340.0	0
12	"	"の2	L=137.0	48	12	野崎	大谷	L=111.0	0
13	"	"の3	L=25.0	49	13	野崎	大谷	L=111.0	0
14	"	"の4	L=82.0	50	14	野崎	大谷	L=111.0	0
15	"	"の5	L=60.0	51	15	野崎	大谷	L=111.0	0
16	永沢川	蜘蛛頭	L=782.0	52	16	野崎	大谷	L=111.0	0
17	"	"の1	L=1,515.0	53	17	野崎	大谷	L=111.0	0
18	"	"の2	L=653.8	54	18	野崎	大谷	L=111.0	0
19	瀧沢川	赤坂	L=140.0	55	19	野崎	大谷	L=111.0	0
20	"	"の1	L=136.0	56	20	野崎	大谷	L=111.0	0
21	"	"の2	L=148.0	57	21	野崎	大谷	L=111.0	0
22	野崎川	野崎	L=347.0	58	22	野崎	大谷	L=111.0	0
23	女夫坂川	女夫坂	L=701.0	59	23	野崎	大谷	L=111.0	0
24	駒丘川	駒丘	L=225.0	60	24	野崎	大谷	L=111.0	0
25	"	"の1	L=330.0	61	25	野崎	大谷	L=111.0	0
26	"	"の2	L=30.0	62	26	野崎	大谷	L=111.0	0
27	"	"の3	L=40.0	63	27	野崎	大谷	L=111.0	0
28	佐野川	佐野	L=130.0	64	28	野崎	大谷	L=111.0	0
29	新井田川	新井田	L=200.0	65	29	野崎	大谷	L=111.0	0
30	"	"の1	L=31.0	66	30	野崎	大谷	L=111.0	0
31	上木沢川	新井田	L=110.0	67	31	野崎	大谷	L=111.0	0
32	高谷野原	新井田	L=240.0	68	32	野崎	大谷	L=111.0	0
33	"	"の2	L=5.5	69	33	野崎	大谷	L=111.0	0
34	"	"の3	L=30.0	70	34	野崎	大谷	L=111.0	0
35	"	"の4	L=15.0	71	35	野崎	大谷	L=111.0	0
36	松本川	北長	L=117.0	72	36	野崎	大谷	L=111.0	0

凡例	
×	河川
●	道路
▲	橋
◎	雨量観測所



番号	河川名	位置	数量	単位	番号	河川名	位置	数量	単位
73	中山	中山	L=49.0	95	73	黒川	黒野社	L=25.7	0
74	"	"の1	L=40.0	96	74	松本川	黒田	L=720.0	0
75	田中	伊勢	L=27.0	97	75	新井田	日当	L=111.0	0
76	大森	1号	L=88.0	98	76	和光	4号	L=380.0	0
77	石神沢	鳥ノ海	L=4.5	99	77	女夫坂	蜘蛛頭	L=701.0	0
78	鳥ノ海	2号	L=30.0	100	78	黒川	飯水	L=141.0	0
79	上島田	鎌田	L=10.0	101	79	野崎	大谷	L=111.0	0
80	松本川	取掃石	L=720.0	102	80	野崎	大谷	L=111.0	0
81	北長	橋	L=117.0	103	81	野崎	大谷	L=111.0	0
82	大前	橋	L=55.0	104	82	野崎	大谷	L=111.0	0
83	高谷野原	新井田	L=240.0	105	83	野崎	大谷	L=111.0	0
84	北野中	野崎	L=15.5	106	84	野崎	大谷	L=111.0	0
85	野崎	大谷	L=33.0	107	85	野崎	大谷	L=111.0	0
86	野崎	大谷	L=57.0	108	86	野崎	大谷	L=111.0	0
87	野崎	大谷	L=31.0	109	87	野崎	大谷	L=111.0	0
88	野崎	大谷	L=8.5	110	88	野崎	大谷	L=111.0	0
89	野崎	大谷	L=53.0	111	89	野崎	大谷	L=111.0	0
90	野崎	大谷	L=38.0	112	90	野崎	大谷	L=111.0	0
91	野崎	大谷	L=14.8	113	91	野崎	大谷	L=111.0	0
92	野崎	大谷	L=50.2	114	92	野崎	大谷	L=111.0	0
93	野崎	大谷	L=20.0	115	93	野崎	大谷	L=111.0	0
94	野崎	大谷	L=70.2	116	94	野崎	大谷	L=111.0	0